

稲美町住民アンケート調査
調査結果報告書

令和8年3月

稲 美 町

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 回収状況	1
5. 報告書を見る際の注意事項	1
II 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年代	2
(3) 居住小学校区	2
(4) 職業	3
(5) 通勤・通学先 ※(4)で「就労している人」のみ	3
(6) 自宅からよく利用する駅	4
(7) 稲美町での居住歴	4
(8) 世帯構成	4
(9) 居住形態	5
2. 稲美町での生活環境等について	6
(1) 稲美町の住みやすさの評価	6
(2) 稲美町・お住まいの地区への愛着	7
(3) 稲美町の強み	9

(4) 稲美町での今後の居留意向	10
(5) 稲美町に今後も住み続けたい理由	11
(6) 稲美町に今後も住み続けたいと思わない理由	13
(7) 居住環境として重要だと考える項目	15
3. 人口問題について	17
(1) 人口減少が進むことに対する不安	17
(2) 日常生活の中で人口が減っていると実感することの有無	18
(3) 人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組み	19
(4) 若い世代が定住していくために力を入れるべき施策	21
4. 行政やまちづくりへの住民参加等について	23
(1) 町政に関する情報の入手状況	23
(2) 町の情報を知るために利用している手段	24
(3) 住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策	26
(4) 産業を活性化させるために重点を置くべきこと	28
(5) 子育て支援のために重要だと思う施策	30
(6) 住民参加のまちづくり活動に対する関心度	32
(7) 町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策	33
(8) 地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能	35
5. 稲美町の施策について	37
(1) 町の施策の満足度	37
(2) 町の施策の重要度	39

(3) 稲美町の行政施策全般の満足度.....	40
Ⅲ 調査結果からみる課題のまとめ	41

I 調査概要

1. 調査の目的

稲美町が目標とするまちの姿を明らかにするとともに、実現に向けた施策を示す「第6次稲美町総合計画」の見直し策定にあたり、住民の現在の生活環境や将来に向けたまちづくりについての意見を把握し、町の施策や計画の基礎資料とするために実施した。

2. 調査項目

- (1) 回答者自身のことについて
- (2) 稲美町での生活環境等について
- (3) 人口問題について
- (4) 行政やまちづくりへの住民参加等について
- (5) 稲美町の施策について

3. 調査の設計

- ・調査対象：稲美町内にお住まいの住民 3,000人
- ・調査方法：郵送により配布・回収。またはインターネット回答（調査票にインターネット回答用ID・パスワードを貼付。郵送・インターネットともに無記名で回答）
- ・調査期間：令和7年8月26日（火）～ 令和7年9月19日（金）
※本報告書には回収締切後1か月間の遅着分まで反映

4. 回収状況

対象者数	有効回収数	有効回収率
3,000人	1,296人 (うち336人)	43.2% (うち11.2%)

※（ ）内はインターネット回答の内数

5. 報告書を見る際の注意事項

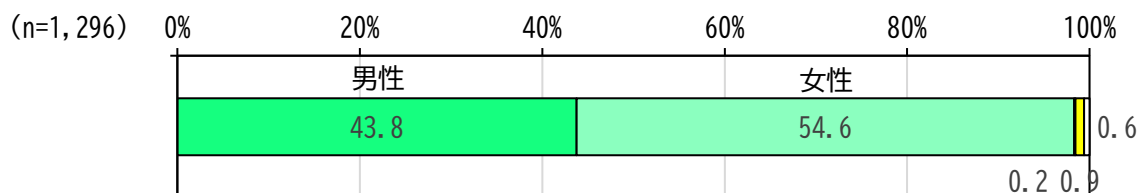
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。
- 「その他」の記述内容については、同様のものはまとめ、主なものを抜粋して掲載している。基本的には原文のままとしているが、明らかな誤字・脱字は訂正するとともに、特定の個人や団体等が判別でき、その権利や利益を侵害する恐れがあるなど、公表することが適切でない判断した表現については一部修正している場合がある。
- クロス集計表は回答の多い上位2項目に網掛け（「その他」「無回答」等を除く）を行っている。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

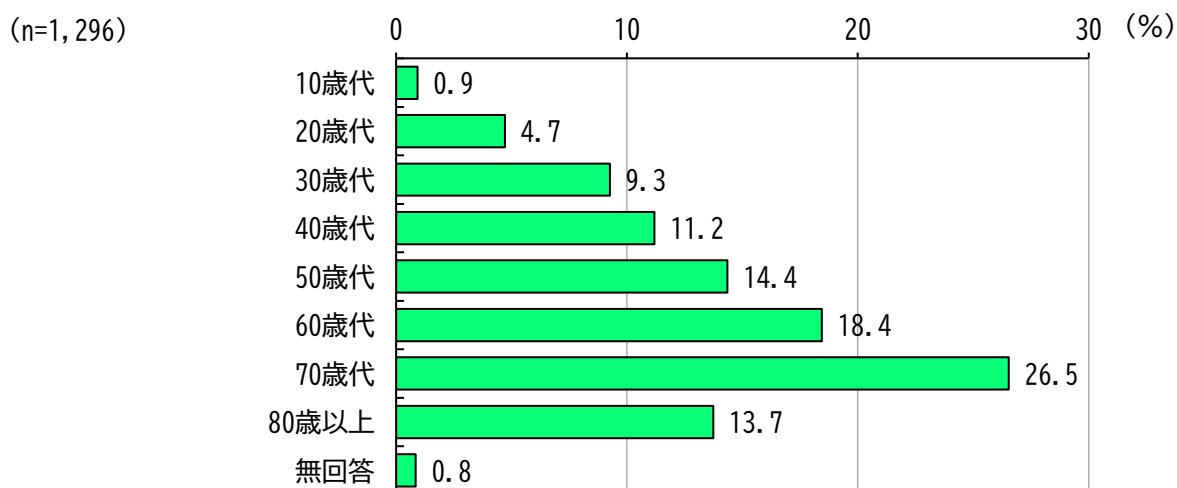
(1) 性別

・調査回答者の性別は、「男性」が43.8%、「女性」が54.6%となっている。



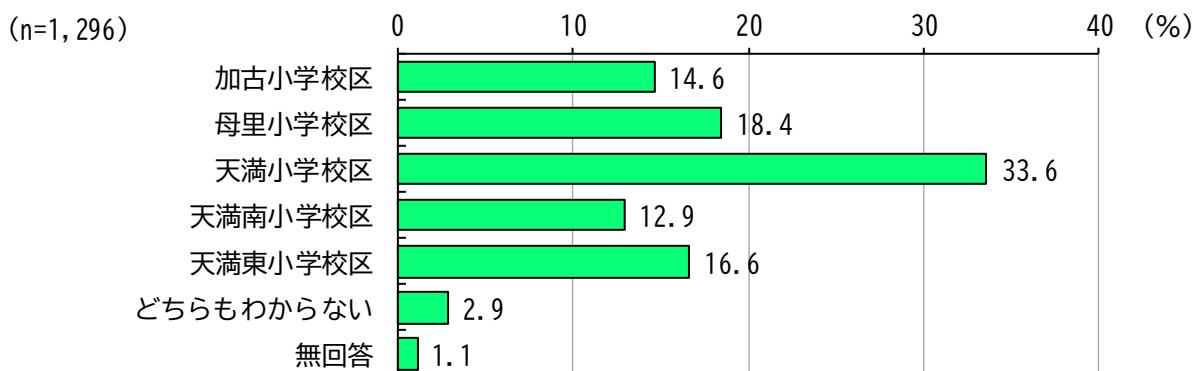
(2) 年代

・調査回答者の年齢は、「70歳代」が26.5%と最も多く、次いで「60歳代」(18.4%)、「50歳代」(14.4%)の順となっており、『60歳以上』が5割以上を占めている。



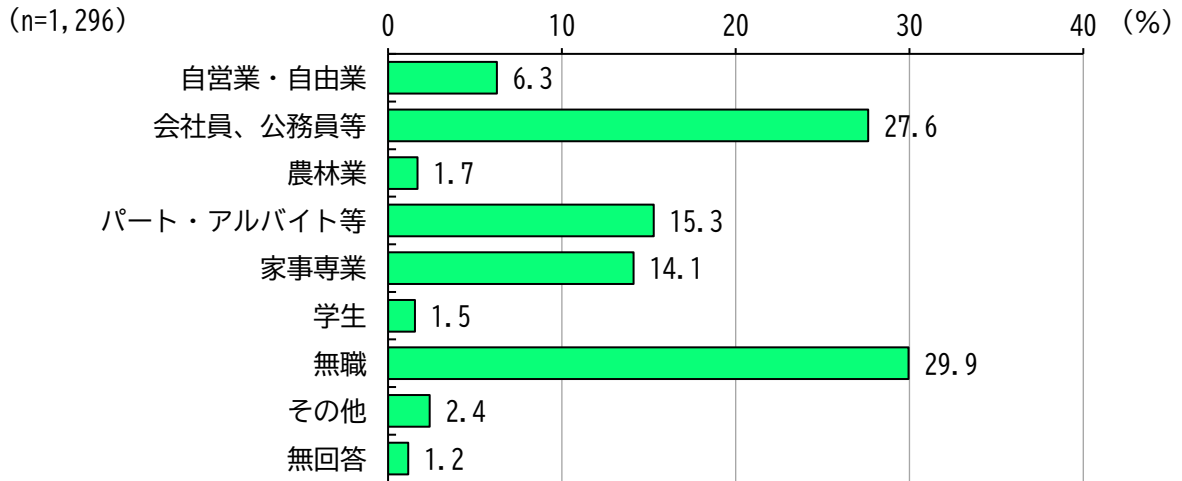
(3) 居住小学校区

・調査回答者の小学校区は、「天満小学校区」が33.6%と最も多く、次いで「母里小学校区」(18.4%)、「天満東小学校区」(16.6%)の順となっている。



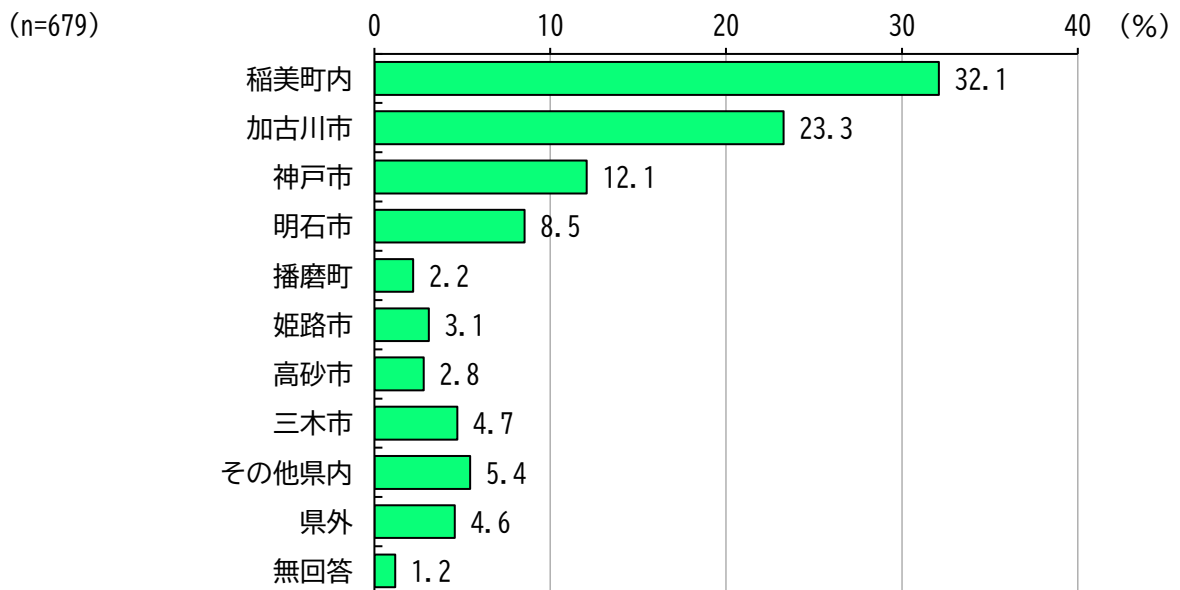
(4) 職業

- ・調査回答者の職業は、「無職」が29.9%と最も多く、次いで「会社員、公務員等」(27.6%)、「パート・アルバイト等」(15.3%)の順となっている。



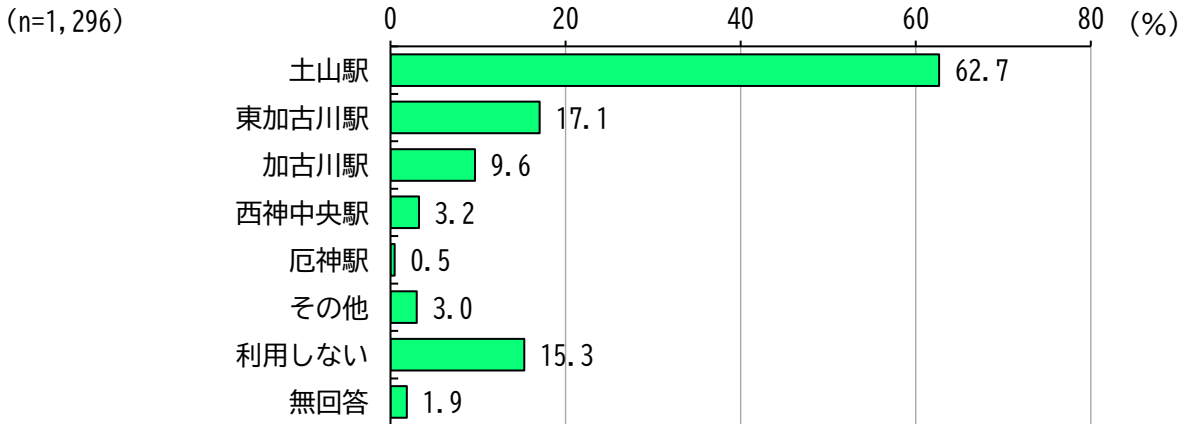
(5) 通勤・通学先 ※(4)で「就労している人」のみ

- ・調査回答者の通勤・通学先は、「稲美町内」が32.1%と最も多く、次いで「加古川市」(23.3%)、「神戸市」(12.1%)の順となっている。



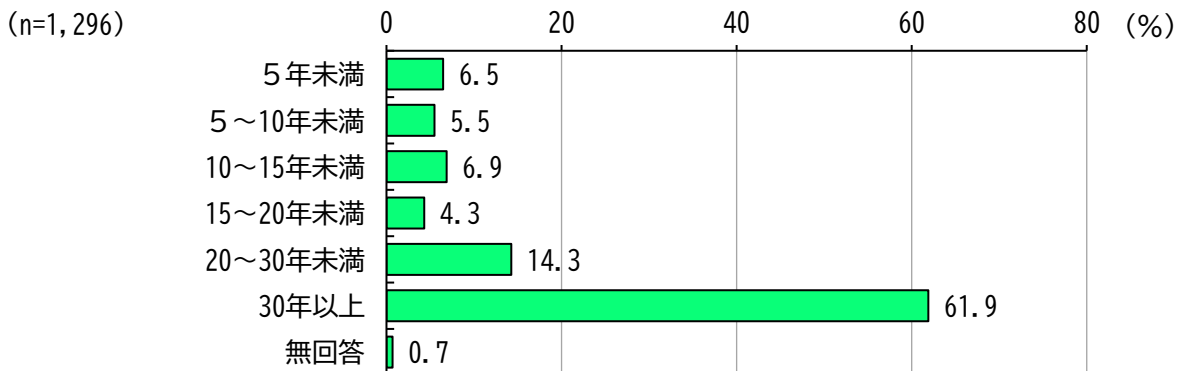
(6) 自宅からよく利用する駅

・調査回答者の自宅からよく利用する駅は、「土山駅」が62.7%と最も多く、次いで「東加古川駅」(17.1%)、「加古川駅」(9.6%)の順となっている。



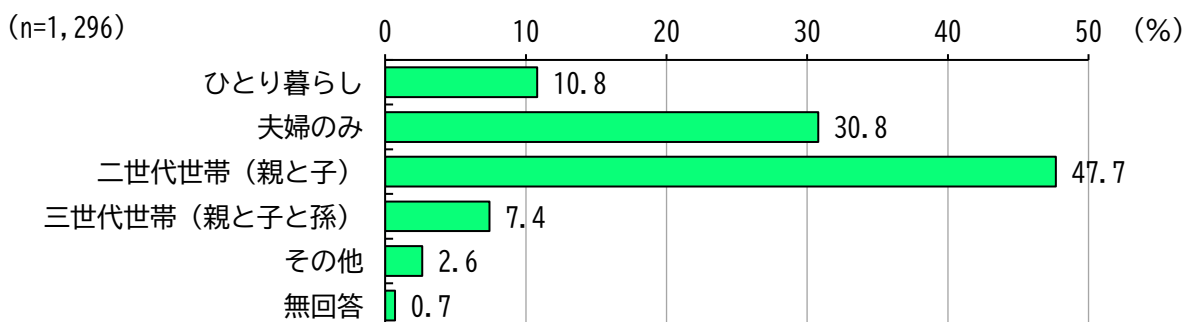
(7) 稲美町での居住歴

・調査回答者の稲美町での居住歴は、「30年以上」が61.9%と最も多く、次いで「20～30年未満」(14.3%)の順となっており、稲美町に居住して『20年以上』の人が7割以上を占めている。



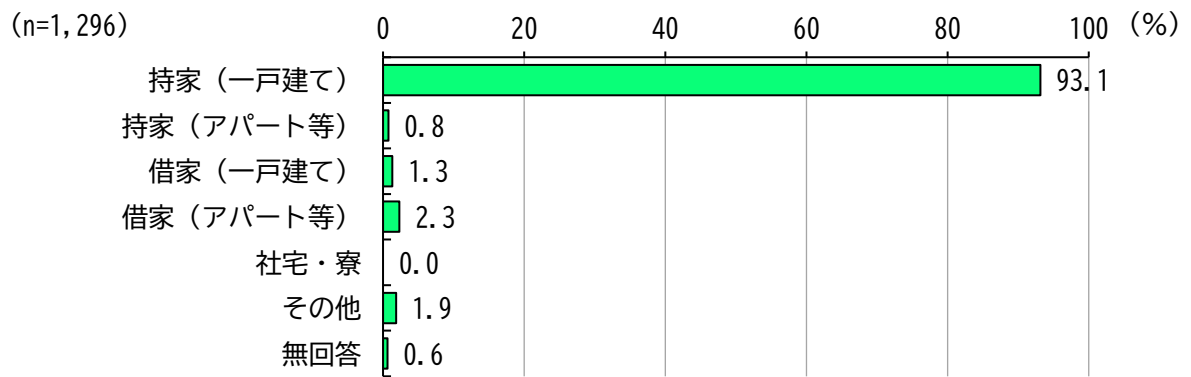
(8) 世帯構成

・調査回答者の世帯構成は、「二世帯世帯（親と子）」が47.7%と最も高く、次いで「夫婦のみ」(30.8%)、「ひとり暮らし」(10.8%)の順となっており、「三世帯世帯」は1割未満となっている。



(9) 居住形態

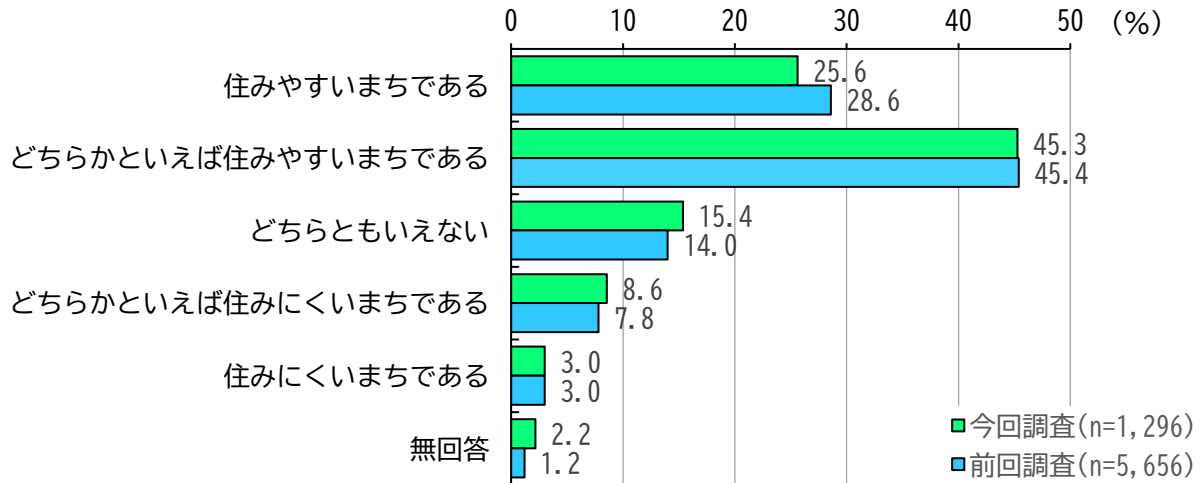
・調査回答者の居住形態は、「持家（一戸建て）」が93.1%と大半を占めている。



2. 稲美町での生活環境等について

(1) 稲美町の住みやすさの評価

- ・住みやすさの評価については、「どちらかといえば住みやすいまちである」が45.3%と4割を超えて最も高く、「住みやすいまちである」(25.6%)と合わせると、7割以上の人が住みやすいと感じていることがわかる。
- ・一方で、「どちらかといえば住みにくいまちである」(8.6%)と「住みにくいまちである」(3.0%)を合わせると、約1割の人が住みにくと感じていることがわかる。
- ・前回調査と比較してみると、「住みやすいまちである」の割合は3.0ポイント低くなっている。



【クロス集計】稲美町の住みやすさの評価

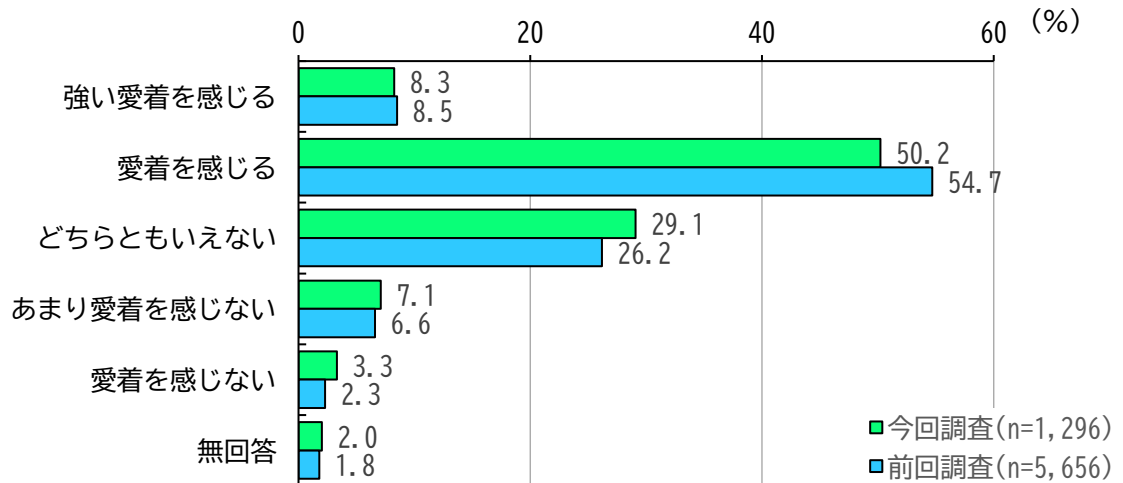
- ・年齢別にみると、すべての年代で「住みやすいまちである」と「どちらかといえば住みやすいまちである」を合わせると7割前後となっているが、20歳代、50歳代、60歳代では「どちらかといえば住みにくいまちである」が1割を超えて比較的高い。

		(n)	あ 住 み や す い ま ち で	あ 住 ど ち ら か よ り す か い ま ち で	い ど ち も い え な い	あ 住 ど ち ら か よ り す か い ま ち で	あ 住 み に く い ま ち で	無 回 答
全体		1296	25.6	45.3	15.4	8.6	3.0	2.2
年 齢	10歳代	12	33.3	41.7	16.7	0.0	0.0	8.3
	20歳代	61	31.1	34.4	13.1	13.1	3.3	4.9
	30歳代	120	30.0	43.3	16.7	4.2	5.0	0.8
	40歳代	145	23.4	50.3	15.9	8.3	2.1	0.0
	50歳代	186	21.0	46.8	14.5	11.3	5.9	0.5
	60歳代	239	23.4	45.6	15.9	10.5	2.9	1.7
	70歳代	344	24.7	47.7	15.7	8.4	1.7	1.7
	80歳以上	178	32.0	39.9	15.2	5.1	1.7	6.2

(2) 稲美町・お住まいの地区への愛着

① 稲美町への愛着

- ・稲美町への愛着については、「愛着を感じる」が50.2%と半数を超えて最も高く、「強い愛着を感じる」(8.3%)と合わせると、約6割の人が稲美町に愛着を感じていることがわかる。
- ・前回調査と比較してみると、「愛着を感じる」の割合は4.5ポイント低くなっている。



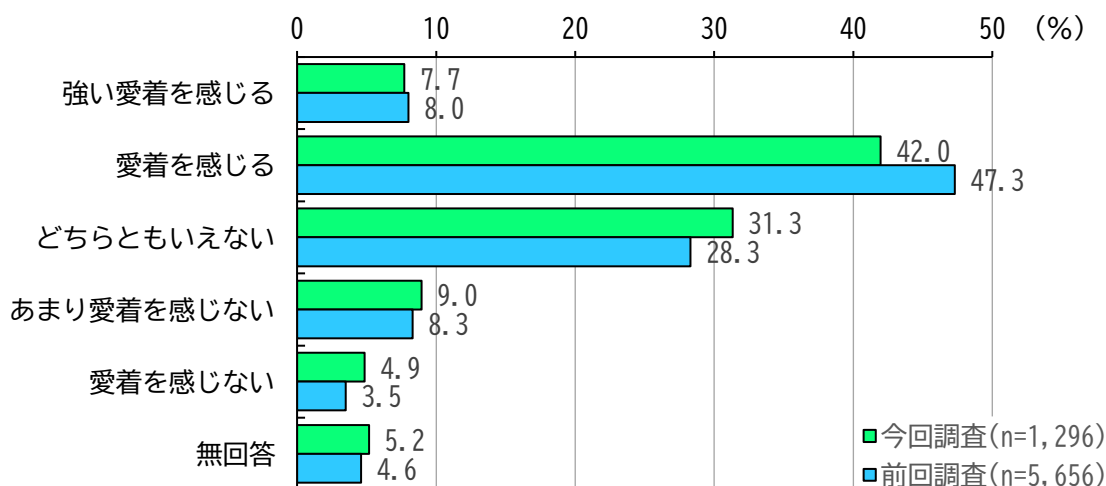
【クロス集計】稲美町への愛着

- ・年齢別にみると、いずれの年代でも「愛着を感じる」の割合が高くなっている。10～30歳代の若い年代と、80歳以上では「強い愛着を感じる」が比較的高い。

		(n)	強い愛着を感じる	愛着を感じる	どちらともいえない	あまり愛着を感じない	愛着を感じない	無回答
全体		1296	8.3	50.2	29.1	7.1	3.3	2.0
年齢	10歳代	12	33.3	50.0	8.3	0.0	0.0	8.3
	20歳代	61	16.4	49.2	18.0	11.5	4.9	0.0
	30歳代	120	10.8	41.7	26.7	11.7	6.7	2.5
	40歳代	145	5.5	50.3	29.0	10.3	4.8	0.0
	50歳代	186	4.3	47.8	36.6	7.0	3.2	1.1
	60歳代	239	6.3	52.7	28.0	8.8	2.9	1.3
	70歳代	344	7.3	53.5	30.5	4.1	2.3	2.3
	80歳以上	178	11.8	50.0	28.1	3.9	1.7	4.5

② 自分の住む地区への愛着

- ・自分の住む地区への愛着については、「愛着を感じる」が 42.0%で最も多く、「強い愛着を感じる」(7.7%) と合わせると、半数近くの人が自分の住む地区に愛着を感じていることがわかる。稲美町への愛着と比較すると、やや低い結果となっている。
- ・前回調査と比較してみると、「愛着を感じる」の割合は 5.3 ポイント低くなっている。



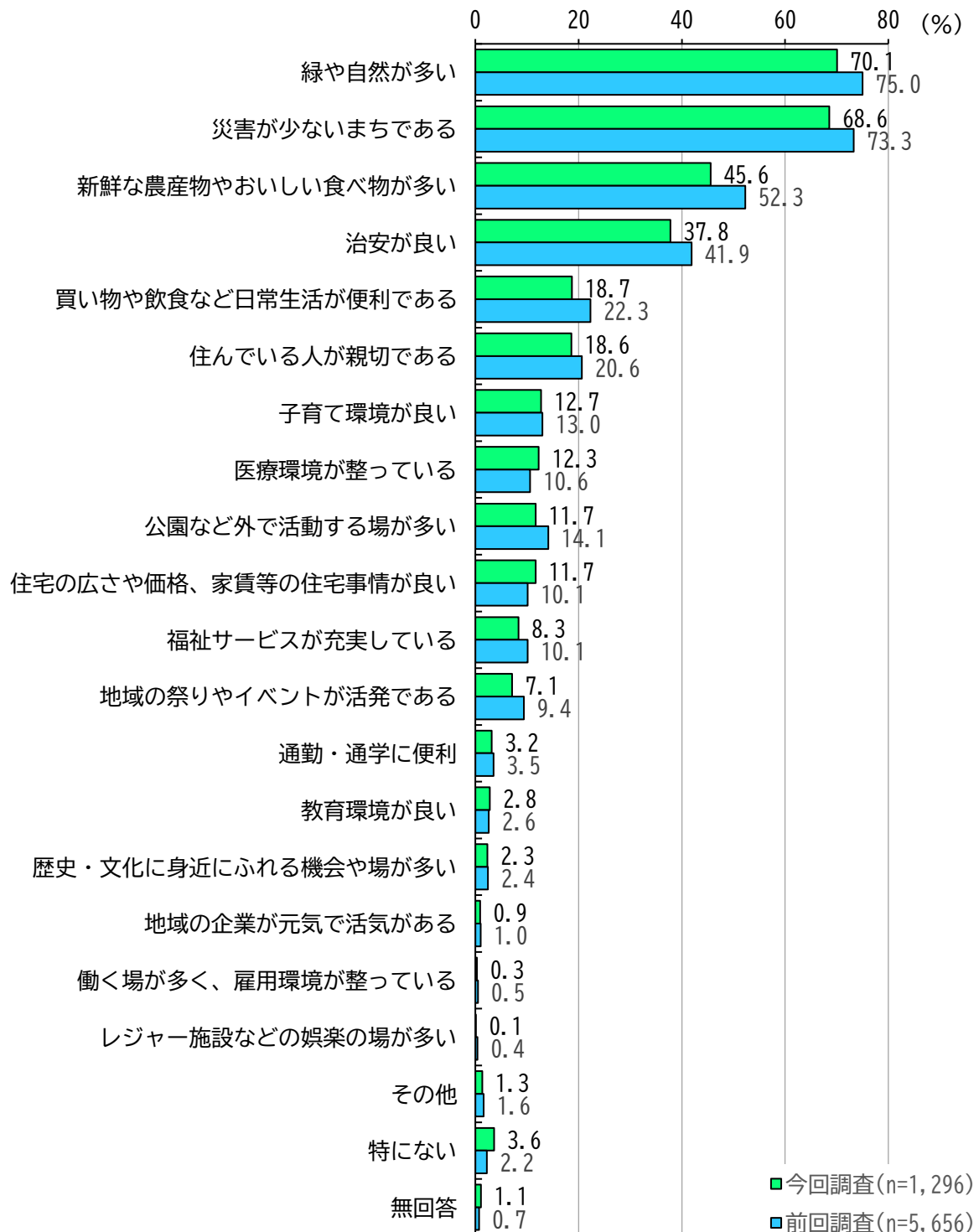
【クロス集計】自分の住む地区への愛着

- ・年齢別にみると、多くの年代で「愛着を感じる」が最も高くなっているが、10歳代で「強い愛着を感じる」、30歳代と50歳代では「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- ・小学校区別にみると、「強い愛着を感じる」と「愛着を感じる」の合計は天満南小学校区が 56.3% で最も高い。

		(n)	強い愛着を感じる	愛着を感じる	どちらともいえない	あまり愛着を感じない	愛着を感じない	無回答
全体		1296	7.7	42.0	31.3	9.0	4.9	5.2
年齢	10歳代	12	41.7	25.0	16.7	8.3	0.0	8.3
	20歳代	61	16.4	32.8	24.6	18.0	4.9	3.3
	30歳代	120	5.8	34.2	39.2	7.5	10.0	3.3
	40歳代	145	3.4	41.4	35.2	12.4	5.5	2.1
	50歳代	186	3.2	37.1	37.6	10.2	7.5	4.3
	60歳代	239	7.5	44.8	32.2	7.1	4.6	3.8
	70歳代	344	7.0	48.8	28.8	7.8	2.9	4.7
	80歳以上	178	12.4	42.1	24.7	7.3	2.2	11.2
小学校区	加古小学校区	189	6.3	47.6	32.8	4.2	5.8	3.2
	母里小学校区	239	8.4	39.3	31.8	12.1	3.3	5.0
	天満小学校区	435	7.4	40.7	34.3	6.9	5.3	5.5
	天満南小学校区	167	9.0	47.3	26.9	9.6	4.2	3.0
	天満東小学校区	215	7.9	42.8	27.0	13.5	3.3	5.6
	自治会名はわかる	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらもわからない	37	2.7	21.6	37.8	8.1	16.2	13.5

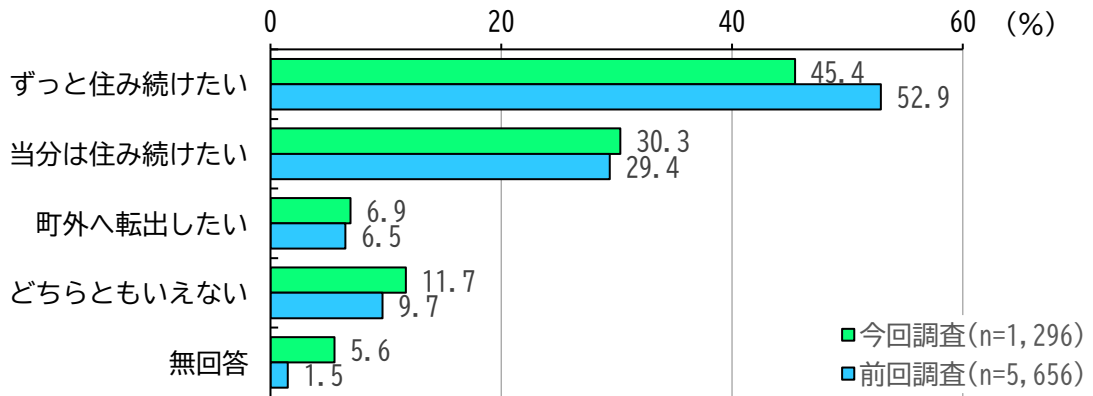
(3) 稲美町の強み

- ・稲美町の強みについては、「緑や自然が多い」が70.1%と、約7割を占めている。
- ・次いで、「災害が少ないまちである」が(68.6%)、「新鮮な農産物やおいしい食べ物が多い」(45.6%)、「治安が良い」(37.8%)、「買い物や飲食など日常生活が便利である」(18.7%)、「住んでいる人が親切である」(18.6%)の順となっており、自然の多さや農産物の豊かさ、災害や犯罪の少ない安心できる環境などが高い項目となっている。
- ・前回調査と比較してみると、上位の項目では概ね5ポイント程度低くなっている。



(4) 稲美町での今後の居住意向

- ・稲美町での今後の居住意向については、「ずっと住みたい」が45.4%と最も高く、「当分は住みたい」(30.3%)と合わせると、7割以上の方が住みたいと感じていることがわかる。
- ・一方で、「町外へ転出したい」は、6.9%となっている
- ・前回調査と比較してみると、「ずっと住みたい」の割合は7.5ポイント低くなっている。



【クロス集計】 稲美町での今後の居住意向

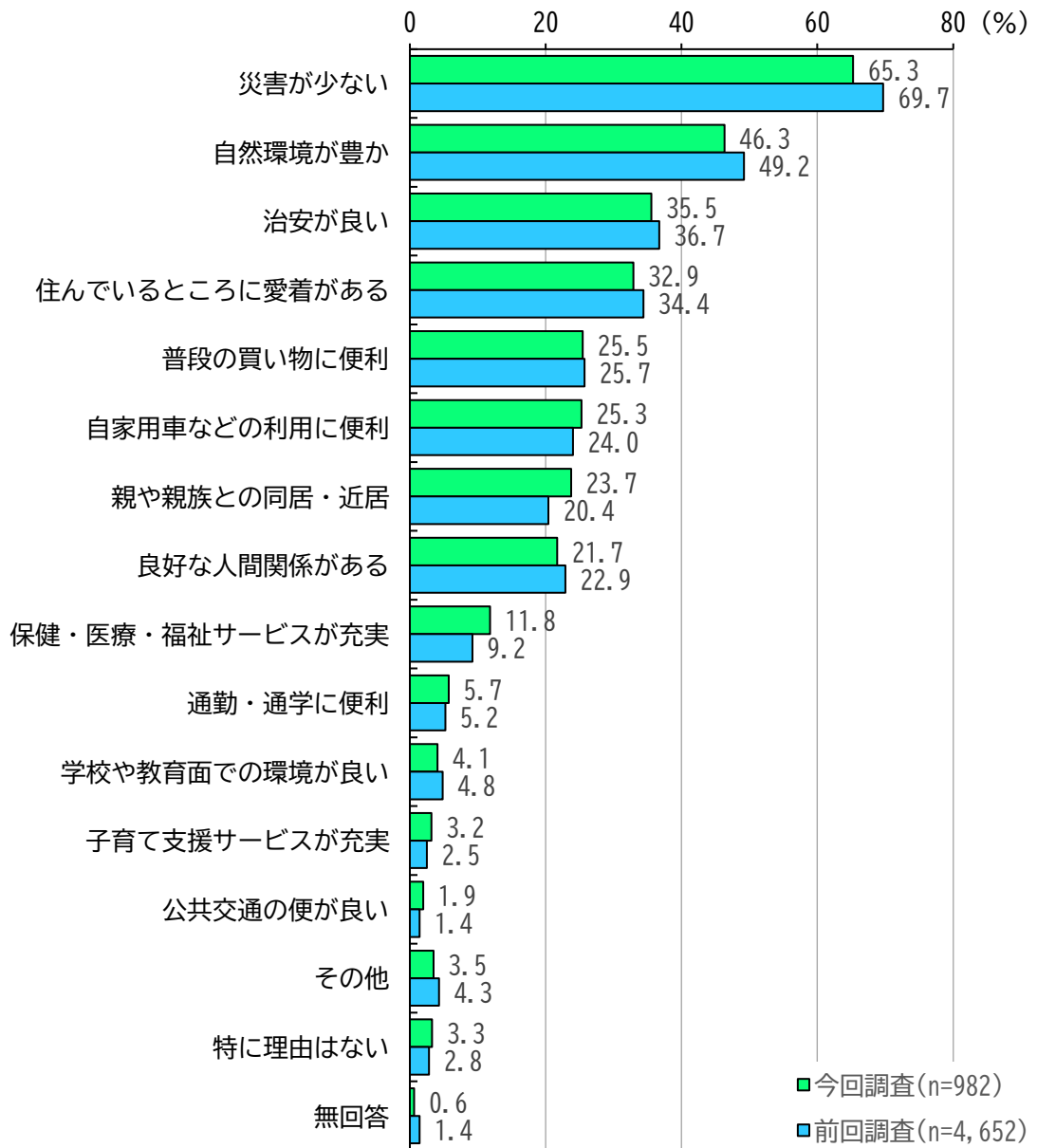
- ・年齢別にみると、10歳代で「当分は住みたい」が66.7%で最も高く、20～50歳代では4割前後が「当分は住みたい」と感じていることがわかる。
- ・また、60歳代以降では、「ずっと住みたい」と感じている人が最も多い。
- ・一方、「町外へ転出したい」は、20歳代、50歳代で1割を超え、20歳代では「どちらともいえない」が2割を超えている。

		(n)	ずっと住みたい	当分は住みたい	町外へ転出したい	どちらともいえない	無回答
全体		1296	45.4	30.3	6.9	11.7	5.6
年齢	10歳代	12	16.7	66.7	8.3	0.0	8.3
	20歳代	61	18.0	37.7	16.4	23.0	4.9
	30歳代	120	35.0	37.5	9.2	12.5	5.8
	40歳代	145	29.0	43.4	9.7	16.6	1.4
	50歳代	186	34.4	40.3	10.8	14.0	0.5
	60歳代	239	48.1	29.7	5.4	10.5	6.3
	70歳代	344	57.6	20.3	4.1	10.2	7.8
	80歳以上	178	61.8	19.7	3.4	7.3	7.9

(5) 稲美町に今後も住み続けたい理由

※(4)で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した人のみ

- ・稲美町に今後も住み続けたいと回答した人の理由については、「災害が少ない」が65.3%と6割以上を占めて最も多く、次いで「自然環境が豊か」(46.3%)、「治安が良い」(35.5%)、「住んでいるところに愛着がある」(32.9%)の順となっている。
- ・(3)の稲美町の強みと比較すると、順位は異なるものの上位項目は同様の内容となっている。
- ・前回調査と比較してみると、大きな変動はみられない。



【クロス集計】稲美町に今後も住みたい理由

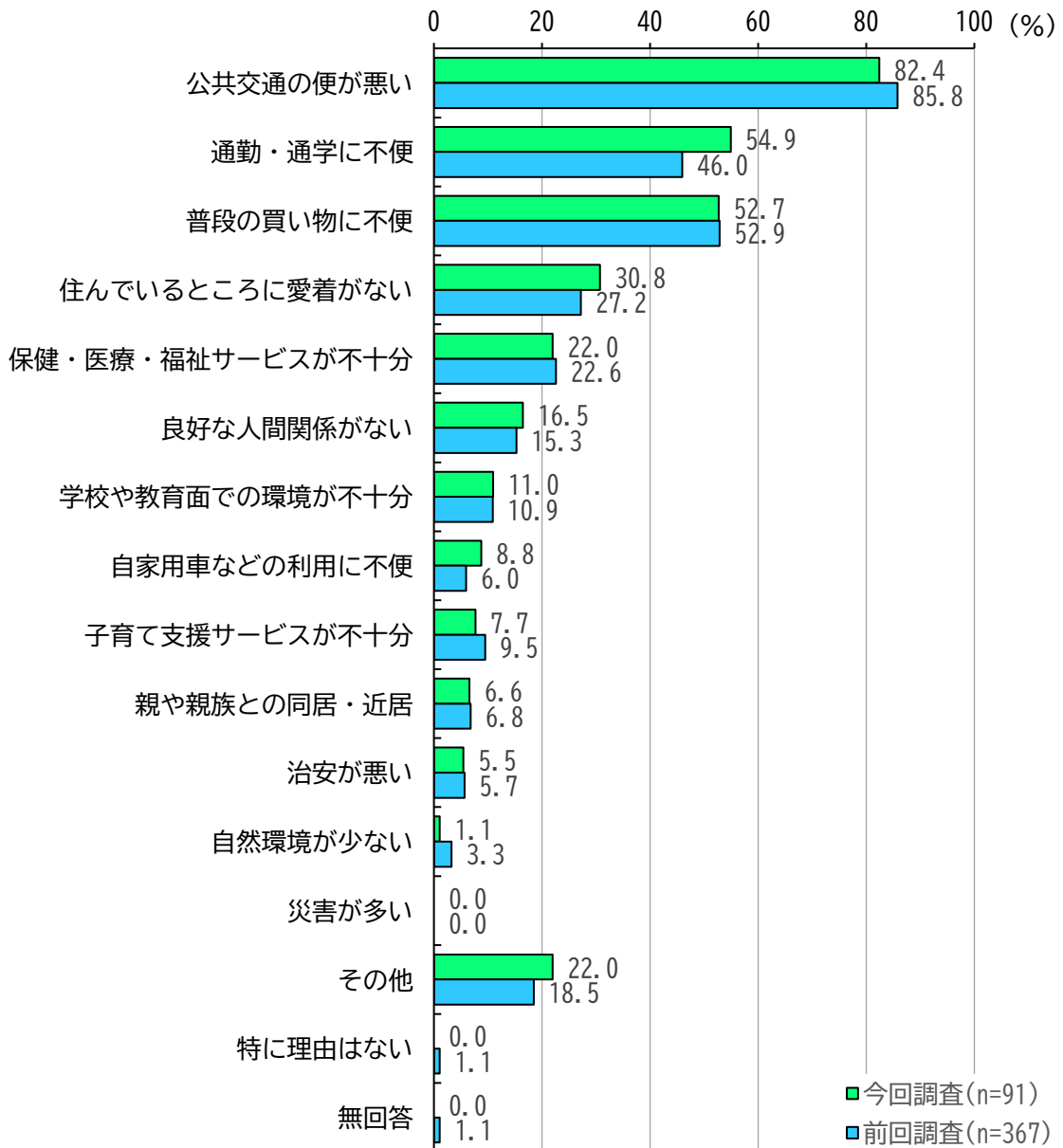
- ・年齢別にみると、「災害が少ない」が10～20歳代を除くすべての年代で最も高い。
- ・10歳代では「自然環境が豊か」(70.0%)、20歳代では「親や親族との同居・近居」(50.0%)が最も高い。

		(n)	通勤・通学に便利	公共交通の便が良い	自家用車などの利用に便利	普段の買い物に便利	保健・医療・福祉サービスが充実	子育て支援サービスが充実	学校や教育面での環境が良い	治安が良い
全体		982	5.7	1.9	25.3	25.5	11.8	3.2	4.1	35.5
年齢	10歳代	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	20歳代	34	23.5	0.0	32.4	14.7	2.9	5.9	5.9	32.4
	30歳代	87	12.6	3.4	21.8	17.2	4.6	13.8	10.3	29.9
	40歳代	105	13.3	1.0	22.9	19.0	10.5	9.5	11.4	27.6
	50歳代	139	5.0	2.2	27.3	25.2	7.9	1.4	1.4	28.8
	60歳代	186	5.9	1.1	28.0	26.3	5.4	0.5	2.2	28.0
	70歳代	268	1.9	2.6	25.0	32.5	12.7	1.1	1.9	45.5
	80歳以上	145	0.0	2.1	24.8	26.2	29.0	0.0	3.4	42.1
		(n)	自然環境が豊か	災害が少ない	近親や親族との同居・近居	住んでみるところに愛着がある	良好な人間関係がある	その他	特に理由はない	無回答
全体		982	46.3	65.3	23.7	32.9	21.7	3.5	3.3	0.6
年齢	10歳代	10	70.0	40.0	20.0	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	34	35.3	35.3	50.0	38.2	17.6	0.0	0.0	0.0
	30歳代	87	41.4	48.3	39.1	17.2	18.4	3.4	4.6	0.0
	40歳代	105	44.8	53.3	35.2	30.5	18.1	3.8	3.8	1.9
	50歳代	139	38.1	60.4	33.1	26.6	16.5	9.4	2.9	0.7
	60歳代	186	46.8	63.4	21.5	36.6	21.0	2.7	5.4	0.5
	70歳代	268	50.4	81.3	16.0	32.5	25.7	2.6	2.2	0.0
	80歳以上	145	51.7	70.3	9.0	42.1	22.8	1.4	2.8	1.4

(6) 稲美町に今後も住み続けたいと思わない理由

※(4)で「町外へ転出したい」と回答した人のみ

- ・町外へ転出したいと回答した人の理由については、「公共交通の便が悪い」が82.4%と8割以上を占めて最も多く、次いで「通勤・通学に不便」(54.9%)、「普段の買い物に不便」(52.7%)、の順となっており、主に交通や移動に不便さを感じている人が多い結果となっている。
- ・前回調査と比較してみると、「通勤・通学に不便」の割合は8.9ポイント高くなっている。



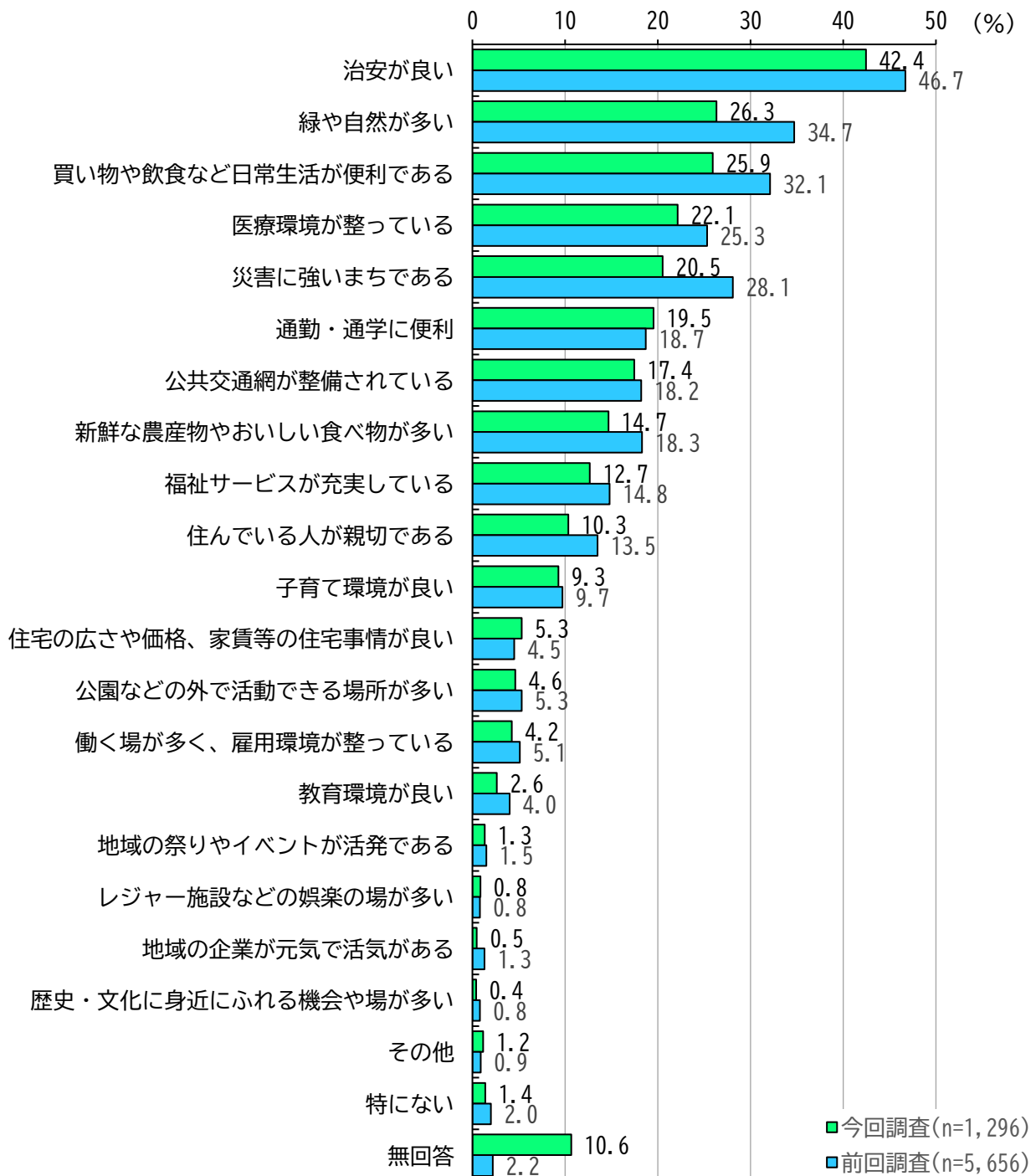
【クロス集計】稲美町に今後も住みたいと思わない理由

・年齢別にみると、いずれの年代においても「公共交通の便が悪い」で割合が高くなっている。

		(n)	通勤・通学に不便	公共交通の便が悪い	自家用車などの利用に不便	普段の買い物に不便	保健・医療・福祉サービスが不十分	子育て支援サービスが不十分	学校や教育面での環境が不十分	治安が悪い	
全体		91	54.9	82.4	8.8	52.7	22.0	7.7	11.0	5.5	
年齢	10歳代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20歳代	10	80.0	80.0	0.0	30.0	20.0	10.0	20.0	0.0	
	30歳代	11	54.5	63.6	9.1	36.4	36.4	36.4	36.4	9.1	
	40歳代	14	57.1	78.6	0.0	42.9	14.3	0.0	14.3	7.1	
	50歳代	20	65.0	85.0	15.0	45.0	25.0	5.0	10.0	10.0	
	60歳代	13	38.5	92.3	15.4	76.9	15.4	0.0	0.0	7.7	
	70歳代	15	40.0	86.7	6.7	66.7	13.3	0.0	0.0	0.0	
	80歳以上	6	50.0	100.0	16.7	100.0	50.0	16.7	0.0	0.0	
		(n)	自然環境が少ない	災害が多い	近親や親族との同居・	愛着がないところに	住んでいない	良好な人間関係がない	その他	特に理由はない	無回答
全体		91	1.1	0.0	6.6	30.8	16.5	22.0	0.0	0.0	
年齢	10歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20歳代	10	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	11	0.0	0.0	9.1	36.4	45.5	36.4	0.0	0.0	
	40歳代	14	0.0	0.0	14.3	7.1	14.3	14.3	0.0	0.0	
	50歳代	20	0.0	0.0	5.0	45.0	15.0	30.0	0.0	0.0	
	60歳代	13	0.0	0.0	15.4	38.5	15.4	30.8	0.0	0.0	
	70歳代	15	6.7	0.0	0.0	40.0	13.3	13.3	0.0	0.0	
	80歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	

(7) 居住環境として重要だと考える項目

- ・居住環境として重要だと考える項目については、「治安が良い」が42.4%と4割以上を占めて最も高く、次いで「緑や自然が多い」(26.3%)、「買い物や飲食など日常生活が便利である」(25.9%)、「医療環境が整っている」(22.1%)、「災害に強いまちである」(20.5%)、の順となっている。
- ・(3)の稲美町の強みと比較すると、治安の良さ、自然の豊かさ、災害の少なさ(災害への強さ)などでは上位項目で一致している。一方で、通勤・通学への利便性では、(6)稲美町に今後も住み続けたいと思わない理由の高さに比べて、居住環境としての重要性はやや低くなっている。
- ・前回調査と比較してみると、「緑や自然が多い」の割合は今回調査の結果が8.4ポイント、「災害に強いまちである」が7.6ポイントなど、ほとんどの項目で低下している。



【クロス集計】居住環境として重要だと考える項目

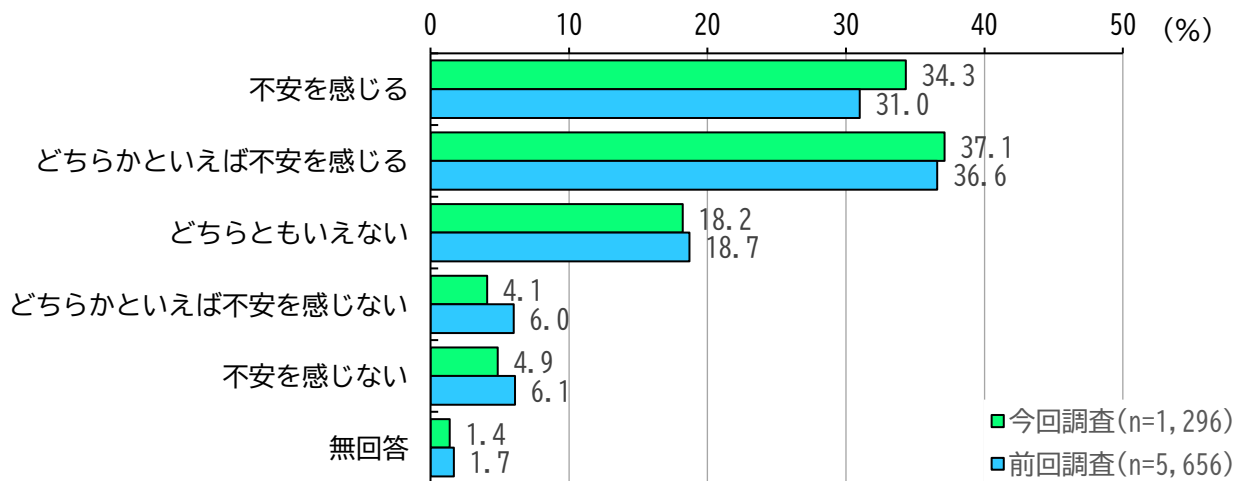
・年齢別にみると、10～20歳代で「通勤・通学に便利」、30～70歳代で「治安が良い」、80歳代で「緑や自然が多い」の割合が最も高くなっている。

		(n)	緑や自然が多い	通勤・通学に便利	多活動できる場所が多い	公園などの外で遊ぶ場所が多い	親切である人が多くいる	治安が良い	にふれる機会が多い	歴史・文化に身近	子育て環境が良い	教育環境が良い	医療環境が整っている	充実しているサービス	福祉サービスがある	地域の企業がある
全体		1296	26.3	19.5	4.6	10.3	42.4	0.4	9.3	2.6	22.1	12.7	0.5			
年齢	10歳代	12	25.0	41.7	8.3	25.0	33.3	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0			
	20歳代	61	16.4	57.4	3.3	11.5	50.8	0.0	26.2	3.3	4.9	0.0	1.6			
	30歳代	120	17.5	34.2	5.0	8.3	53.3	0.8	37.5	11.7	6.7	5.0	0.0			
	40歳代	145	21.4	35.2	2.1	9.0	46.9	0.7	19.3	5.5	17.9	4.8	0.0			
	50歳代	186	22.6	24.2	1.6	8.1	45.7	0.0	7.0	1.1	20.4	12.9	0.5			
	60歳代	239	23.4	13.4	2.5	6.3	40.6	0.4	2.9	0.4	27.6	16.3	0.4			
	70歳代	344	29.7	9.6	5.2	13.1	37.8	0.0	2.3	1.2	28.8	16.6	0.6			
	80歳以上	178	41.6	5.1	11.8	12.9	37.1	1.1	0.6	0.6	24.7	16.9	0.6			
		(n)	整雇働多お新ン地 つ用くいい鮮ト域 て環場いしいしな る境が境が多農 く、く、食産物 、、物や 、、物や 、、物や	多お新ン地 いしいしな い農産物 食産物 物や	お鮮しな農産物 新鮮な農産物 新鮮な農産物 新鮮な農産物	地域の祭りが多くある	日常の生活が便利である	レジャー施設が多い	公共交通網が整備されている	事情が良いため	住宅の広さや価格が高い	災害に強いまちである	その他	特にな	無回答	
全体		1296	4.2	14.7	1.3	25.9	0.8	17.4	5.3	20.5	1.2	1.4	10.6			
年齢	10歳代	12	8.3	25.0	16.7	25.0	0.0	25.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0			
	20歳代	61	6.6	6.6	3.3	21.3	4.9	21.3	8.2	18.0	0.0	1.6	1.6			
	30歳代	120	3.3	8.3	0.8	21.7	2.5	15.0	12.5	14.2	0.8	0.8	9.2			
	40歳代	145	4.1	9.0	0.7	27.6	2.8	19.3	9.7	29.0	0.7	0.0	6.2			
	50歳代	186	2.7	11.3	0.5	28.5	0.0	26.3	7.5	21.0	2.2	1.1	11.3			
	60歳代	239	6.3	15.1	0.4	31.0	0.0	20.1	2.9	18.4	1.3	2.5	15.1			
	70歳代	344	5.2	17.7	1.2	27.6	0.3	14.2	2.0	21.2	1.2	1.7	11.0			
	80歳以上	178	1.1	23.6	2.2	18.0	0.0	9.0	3.4	20.2	0.6	1.1	11.2			

3. 人口問題について

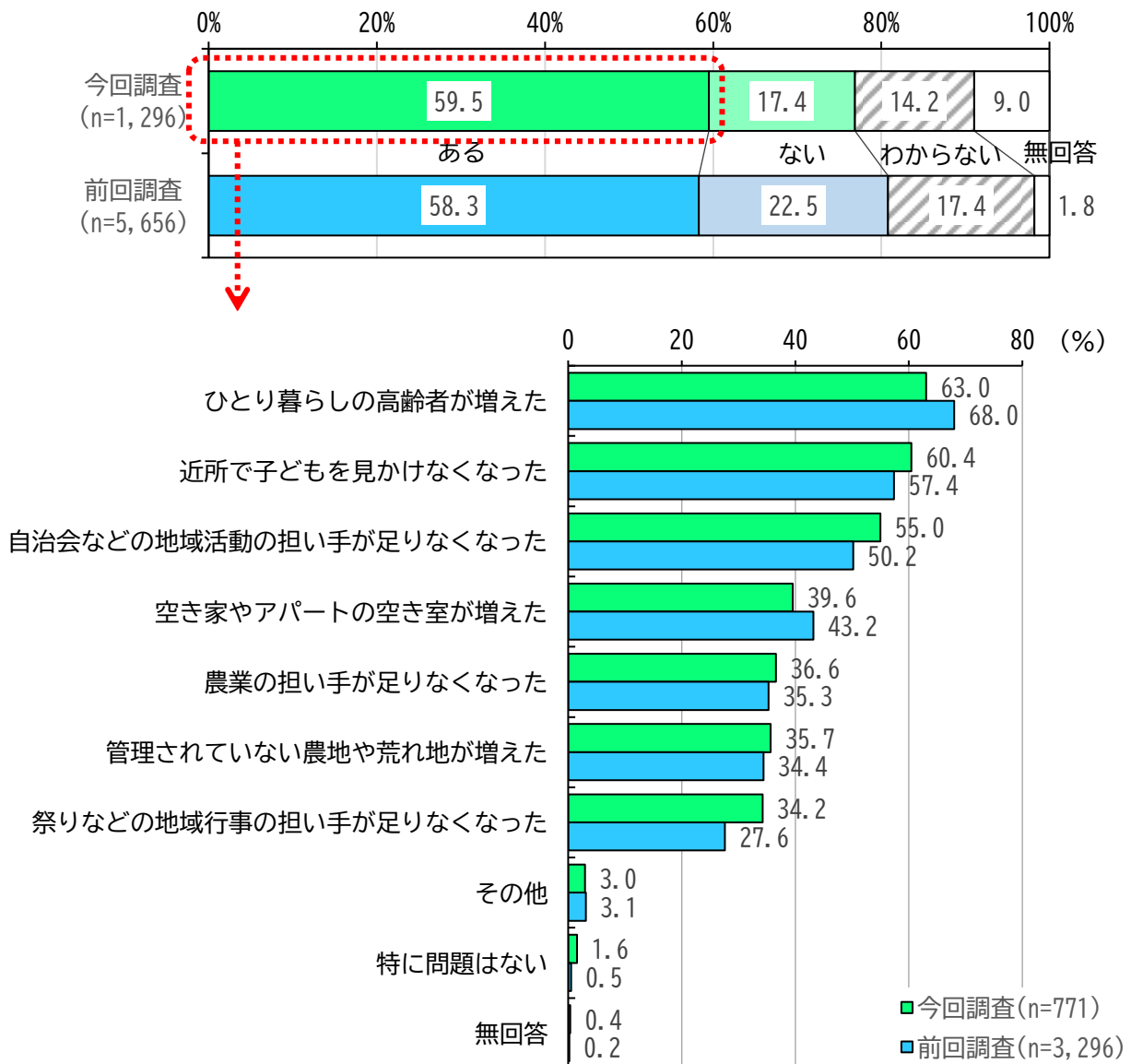
(1) 人口減少が進むことに対する不安

- ・人口減少が進むことに対する不安については、「どちらかといえば不安を感じる」が 37.1%で最も多く、「不安を感じる」(34.3%) と合わせると、7割を超えて人口減少に不安を感じていることがわかる。
- ・前回調査と比較してみると、「不安を感じる」の割合は今回調査の結果が 3.3 ポイント高くなっている。



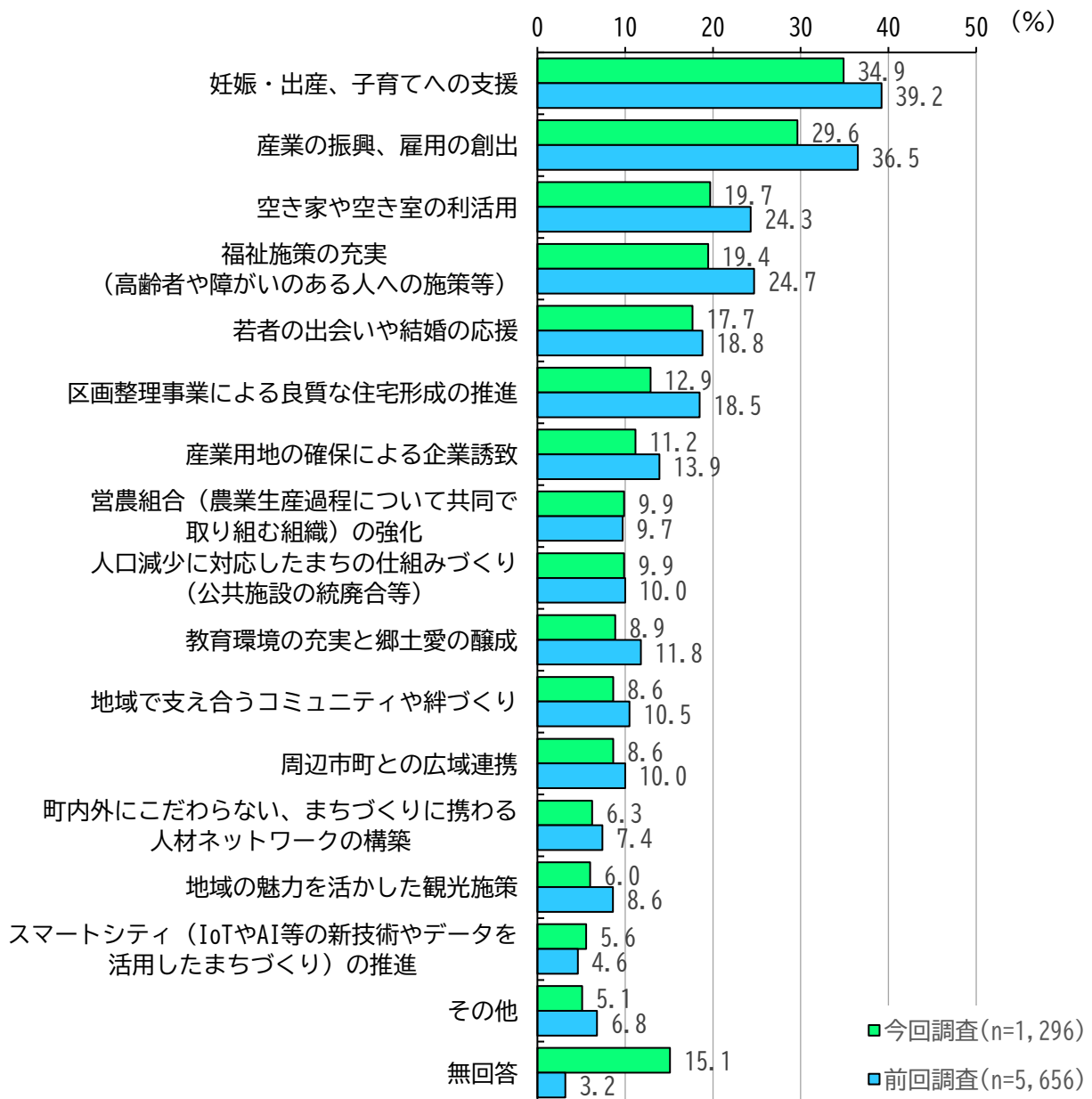
(2) 日常生活の中で人口が減っていると実感することの有無

- ・日常生活の中で人口が減っていると実感することについては、「ある」が 59.5%と6割近くを占めている。
- ・前回調査と比較してみると、「ある」の割合は今回調査の結果が 1.2 ポイント高くなっている。
- ・実感することがあると回答した人で、身の回りに起きている問題では、「ひとり暮らしの高齢者が増えた」が 63.0%、「近所で子どもを見かけなくなった」が 60.4%と6割以上を占めている。
- ・次いで、「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなった」(55.0%)の順となっている。
- ・前回調査と比較してみると、「ひとり暮らしの高齢者が増えた」の割合は今回調査の結果が 5.0 ポイント低くなっている一方、「近所で子どもを見かけなくなった」「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなった」「祭りなどの地域行事の担い手が足りなくなった」などの割合がわずかながら高くなっている。



(3) 人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組み

- ・人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組みでは、「妊娠・出産、子育てへの支援」が34.9%で最も多く、次いで、「産業の振興、雇用の創出」(29.6%)、「空き家や空き室の利活用」(19.7%)、「福祉施策の充実(高齢者や障がいのある人への施策等)」(19.4%)、「若者の出会いや結婚の応援」(17.7%)、「土地区画整理事業による良質な宅地の形成の推進」(12.9%)の順となっており、人口増に直接かかわる妊娠・出産への支援や雇用創出に対する要望が高くなっている。
- ・前回調査と比較してみると、上位項目を含む多くの項目で割合が低くなっている。



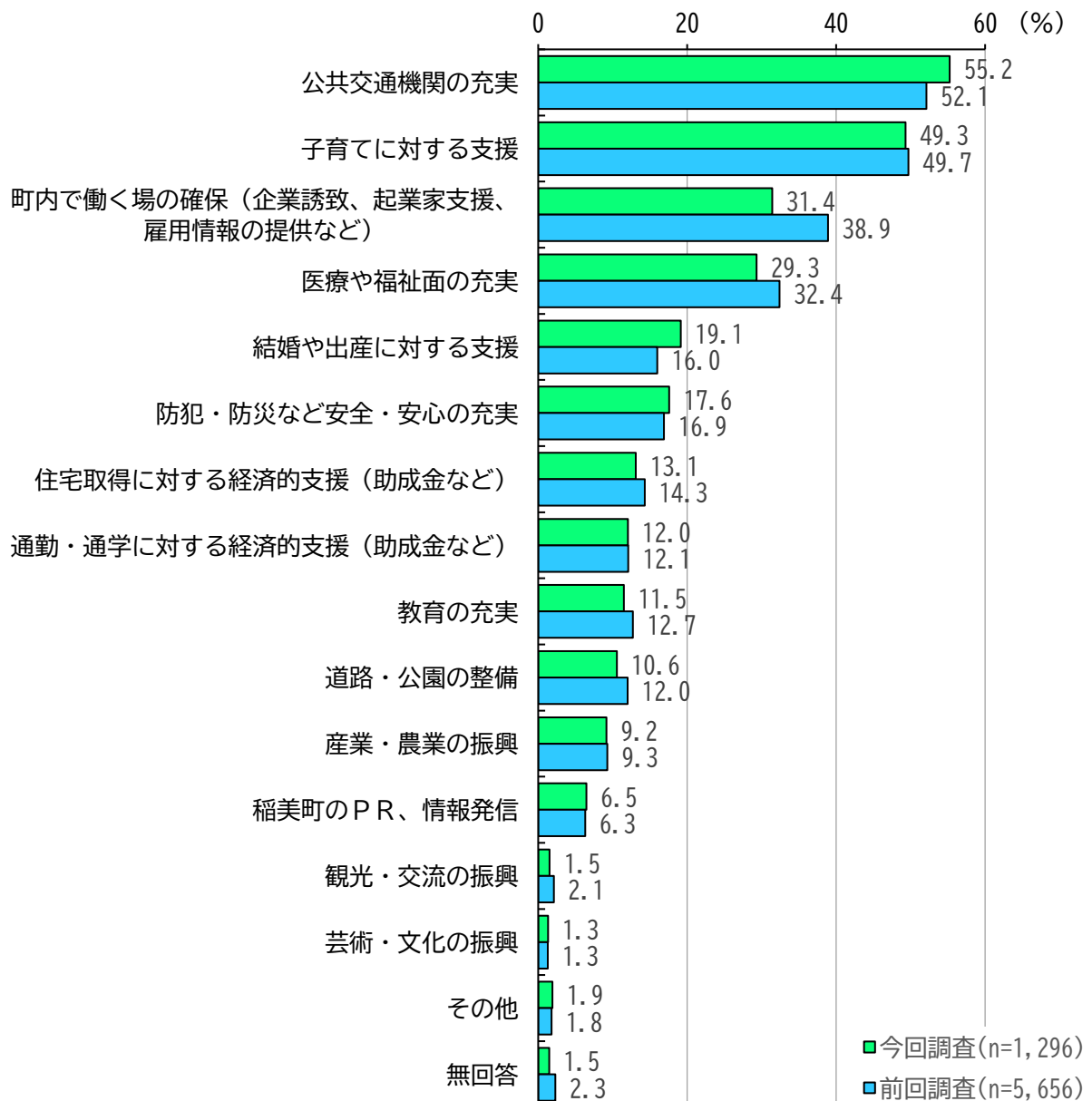
【クロス集計】人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組み

- ・年齢別にみると、「妊娠・出産、子育てへの支援」が10～40歳代で最も高く、特に10歳代と30歳代では7～8割と高くなっている。
- ・50～70歳代では「産業の振興、雇用の創出」、80歳以上では「若者の出会いや結婚の応援」の割合が高い。

		(n)	産業の振興、雇用の創出	若者の出会いや結婚の応援	妊娠・出産、子育てへの支援	教育環境の充実と郷土愛の醸成	福祉施策の充実（高齢者や障がいのある人への施策等）	地域の魅力を活かした観光施策	営農組合（農業生産過程について共同で取り組む組織）の強化	空き家や空き室の活用	地域で支え合うコミュニティや絆づくり	
全体		1296	29.6	17.7	34.9	8.9	19.4	6.0	9.9	19.7	8.6	
年齢	10歳代	12	8.3	0.0	83.3	16.7	8.3	25.0	25.0	33.3	8.3	
	20歳代	61	24.6	19.7	59.0	13.1	6.6	11.5	3.3	18.0	3.3	
	30歳代	120	20.0	19.2	73.3	20.0	8.3	7.5	5.8	15.0	8.3	
	40歳代	145	31.7	18.6	45.5	12.4	11.7	5.5	4.1	18.6	10.3	
	50歳代	186	37.1	11.3	32.8	8.1	22.0	7.5	4.8	26.9	5.9	
	60歳代	239	37.7	16.7	32.6	5.4	18.8	5.0	10.9	21.3	7.5	
	70歳代	344	27.0	16.0	18.6	6.1	25.3	5.2	14.2	18.3	8.4	
	80歳以上	178	24.7	27.5	26.4	7.3	26.4	3.4	13.5	16.9	14.6	
		(n)	まちづくり（まちづくり技術やIoTやAI）の推進	スマートニューテクノロジー（IoTやAI）の推進	住宅形成の事業による良質な	区画整理の事業による良質な	産業用地の確保による企業誘致	人口減少に対応したまちの仕組みづくり（公共施設の統廃合等）	周辺市町との広域連携	町内外に携わる人材ネットワーク、まちづくりの構築	その他	無回答
全体		1296	5.6	12.9	11.2	9.9	8.6	6.3	5.1	15.1		
年齢	10歳代	12	25.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0		
	20歳代	61	11.5	11.5	9.8	14.8	13.1	6.6	9.8	0.0		
	30歳代	120	14.2	15.0	7.5	13.3	11.7	0.8	6.7	3.3		
	40歳代	145	9.7	15.2	13.8	10.3	11.0	8.3	6.9	9.7		
	50歳代	186	5.4	18.8	14.0	8.1	11.8	5.4	8.1	8.6		
	60歳代	239	5.0	17.2	11.7	10.9	3.8	5.9	5.0	16.7		
	70歳代	344	1.2	10.5	11.3	9.3	7.6	6.7	2.9	24.1		
	80歳以上	178	2.2	3.9	9.0	8.4	7.9	7.9	1.7	20.2		

(4) 若い世代が定住していくために力を入れるべき施策

- ・若い世代が定住していくために力を入れるべき施策では、「公共交通機関の充実」が 55.2%で最も多く、次いで、「子育てに対する支援」(49.3%)、「町内で働く場の確保（企業誘致、起業家支援、雇用情報の提供など）」(31.4%)、「医療や福祉面の充実」(29.3%) の順となっており、(6) 稲美町に今後も住み続けたいと思わない理由で最も多かった公共交通の課題解決のほか、子育て支援を含む福祉面の充実、雇用の確保が望まれている。
- ・前回調査と比較してみると、上位項目に大きな変動はみられないが、「町内で働く場の確保（企業誘致、起業家支援、雇用情報の提供など）」の割合は 7.5 ポイント低く、「結婚や出産に対する支援」の割合は 3.1 ポイント高くなっている。



【クロス集計】若い世代が定住していくために力を入れるべき施策

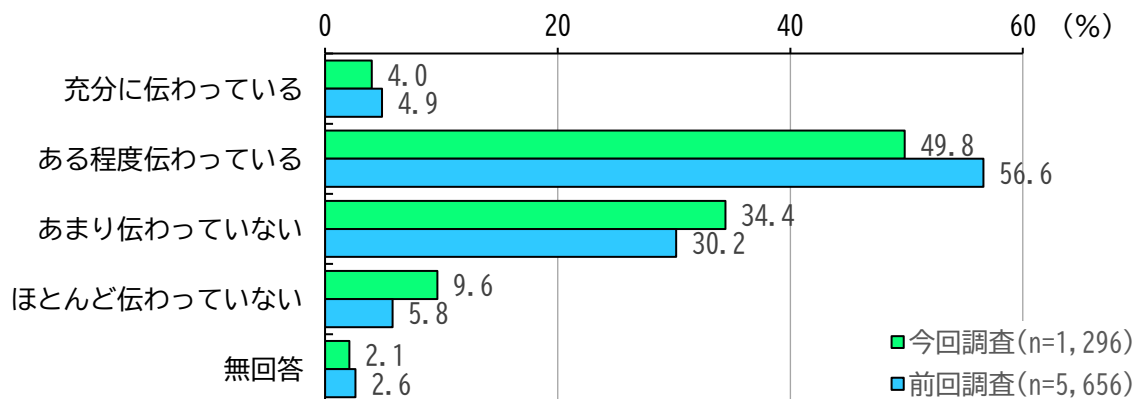
・年齢別にみると、20～30歳代と60歳代で「子育てに対する支援」、その他の年代では「公共交通機関の充実」の割合が高くなっている。

		(n)	公共交通機関の充実	観光・交流の振興	芸術・文化の振興	子育てに対する支援	教育の充実	結婚や出産に対する支援	医療や福祉面の充実	道路・公園の整備
全体		1296	55.2	1.5	1.3	49.3	11.5	19.1	29.3	10.6
年齢	10歳代	12	66.7	8.3	8.3	41.7	0.0	16.7	0.0	16.7
	20歳代	61	67.2	1.6	0.0	68.9	9.8	41.0	16.4	9.8
	30歳代	120	52.5	5.8	2.5	66.7	21.7	24.2	18.3	15.0
	40歳代	145	55.2	2.8	0.0	53.8	21.4	12.4	24.1	14.5
	50歳代	186	57.0	0.0	2.2	46.8	10.8	15.1	35.5	15.1
	60歳代	239	54.0	1.7	1.3	54.4	9.6	20.9	29.3	7.5
	70歳代	344	54.4	0.3	0.9	40.1	8.7	17.7	35.5	10.5
	80歳以上	178	55.1	1.1	1.7	41.0	6.2	19.1	29.2	3.9
		(n)	心防の充・実 防犯・防災など安全・安	的通勤・通学に対する経済 支援（助成金など）	稲美町のPR、情報発信	産業・農業の振興	用業町内での働く場の確保、雇 情報致起業者の支援、（企 業誘致の提供など）	支住宅（取得に金など） 援宅（助成金など）	その他	無回答
全体		1296	17.6	12.0	6.5	9.2	31.4	13.1	1.9	1.5
年齢	10歳代	12	33.3	16.7	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0	0.0
	20歳代	61	11.5	16.4	4.9	1.6	19.7	13.1	0.0	0.0
	30歳代	120	18.3	18.3	3.3	5.8	16.7	10.8	5.0	0.0
	40歳代	145	20.0	18.6	4.8	6.9	26.2	13.8	5.5	0.0
	50歳代	186	15.6	16.7	5.9	5.4	26.9	14.0	2.2	0.5
	60歳代	239	15.9	8.4	5.9	8.8	34.7	17.2	0.8	0.8
	70歳代	344	19.2	7.8	7.6	13.4	39.0	10.2	1.5	2.3
	80歳以上	178	16.9	8.4	10.1	12.4	36.5	13.5	0.0	3.9

4. 行政やまちづくりへの住民参加等について

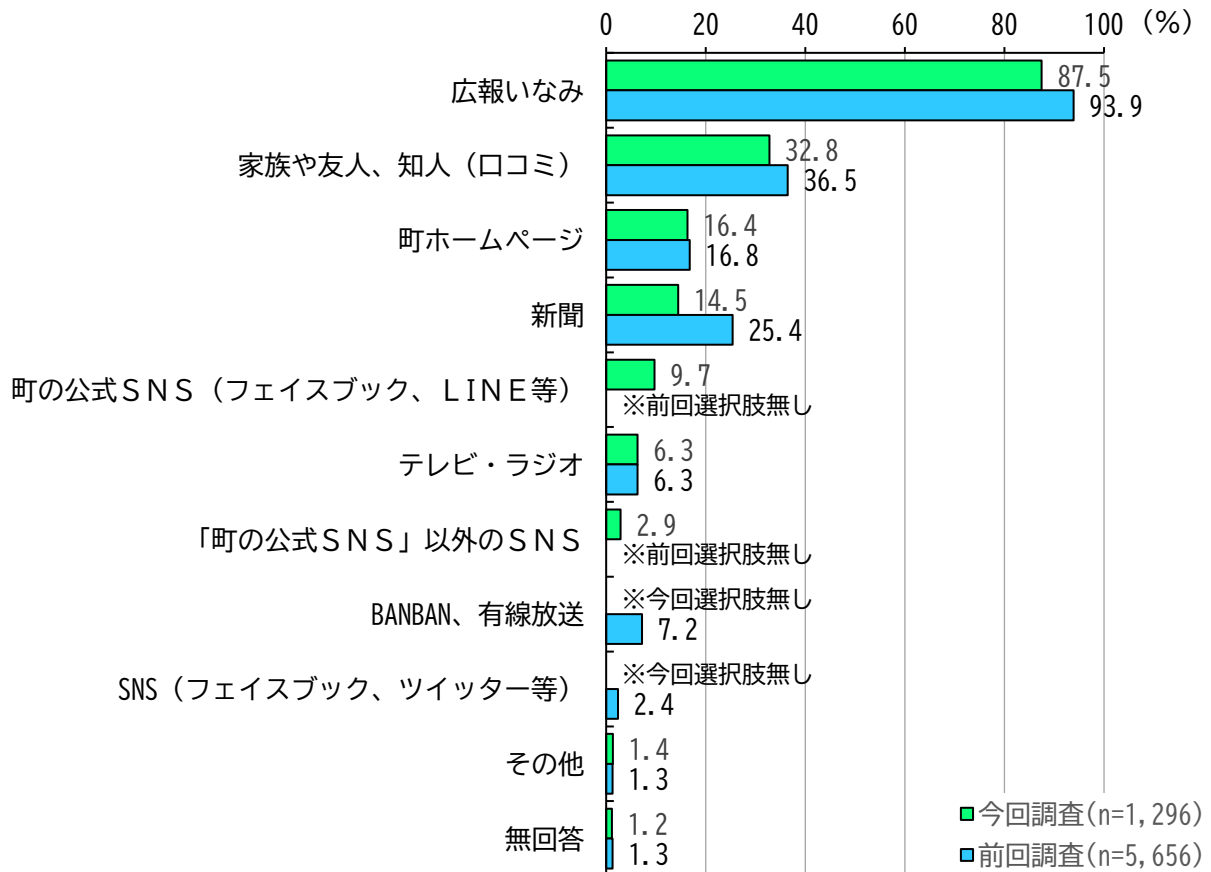
(1) 町政に関する情報の入手状況

- ・町政に関する情報の入手状況については、「ある程度伝わっている」が49.8%と5割近くを占めて最も多く、「十分に伝わっている」(4.0%)と合わせると、5割以上の人が町政に関する情報は伝わっていると感じていることがわかる。
- ・一方で、「あまり伝わっていない」(34.4%)と「ほとんど伝わっていない」(9.6%)を合わせると、4割以上の人が町政に関する情報は伝わっていないと感じていることがわかる。
- ・前回調査と比較してみると、『伝わっている』の割合は低く、『伝わっていない』の割合は高くなっている。



(2) 町の情報を知るために利用している手段

- ・町の情報を知るために利用している手段については、「広報いなみ」が 87.5%と 8割を超えており、その他の項目と比べても突出して高くなっている。
- ・次いで、「家族や友人、知人（口コミ）」(32.8%)、「町ホームページ」(16.4%)、「新聞」(14.5%)の順となっている。
- ・前回調査と比較してみると、「新聞」の割合は 10.9 ポイント低くなっている。



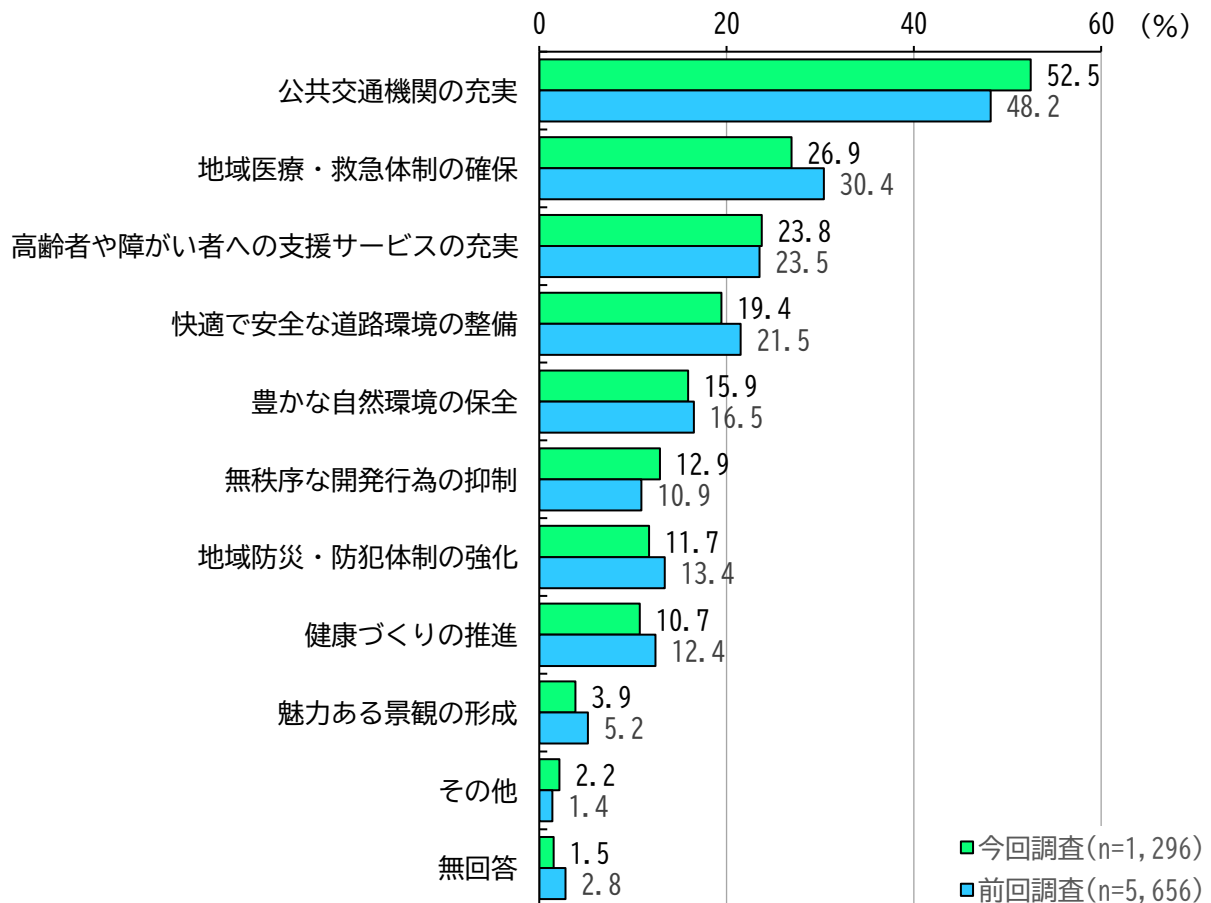
【クロス集計】町の情報を知るために利用している手段

・年齢別にみると、30歳以上で「広報いなみ」の割合が8割を超えて高くなっている。

	(n)	広報いなみ	町ホームページ	新聞	テレビ・ラジオ	LINE等	町の公式SNS（フェイスブック、	「町の公式SNS」以外のSNS	（家族や友人、知人）（口コミ）	その他	無回答
全体	1296	87.5	16.4	14.5	6.3	9.7	2.9	32.8	1.4	1.2	
年齢	10歳代	12	66.7	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	41.7	0.0	0.0
	20歳代	61	55.7	14.8	3.3	8.2	4.9	8.2	44.3	3.3	1.6
	30歳代	120	80.8	12.5	0.8	0.8	15.8	12.5	27.5	0.0	0.0
	40歳代	145	86.9	20.7	5.5	0.0	9.0	4.8	29.0	2.8	0.0
	50歳代	186	86.6	22.6	9.1	3.8	10.8	3.2	24.7	1.1	0.5
	60歳代	239	93.7	21.3	12.6	4.2	11.3	0.8	30.5	1.3	0.4
	70歳代	344	92.4	15.1	21.5	10.5	10.5	0.6	32.8	1.2	1.7
	80歳以上	178	88.2	5.6	30.3	12.4	3.9	0.6	45.5	1.7	2.8

(3) 住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策

- ・住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策では、「公共交通機関の充実」が 52.5%と半数以上を占めて最も高く、次いで、「地域医療・救急体制の確保」(26.9%)、「高齢者や障がい者への支援サービスの充実」(23.8%)、「快適で安全な道路環境の整備」(19.4%)の順となっており、公共交通機関の充実を望む人が多くなっている。
- ・前回調査と比較してみると、「公共交通機関の充実」の割合は 4.3 ポイント高くなっている。



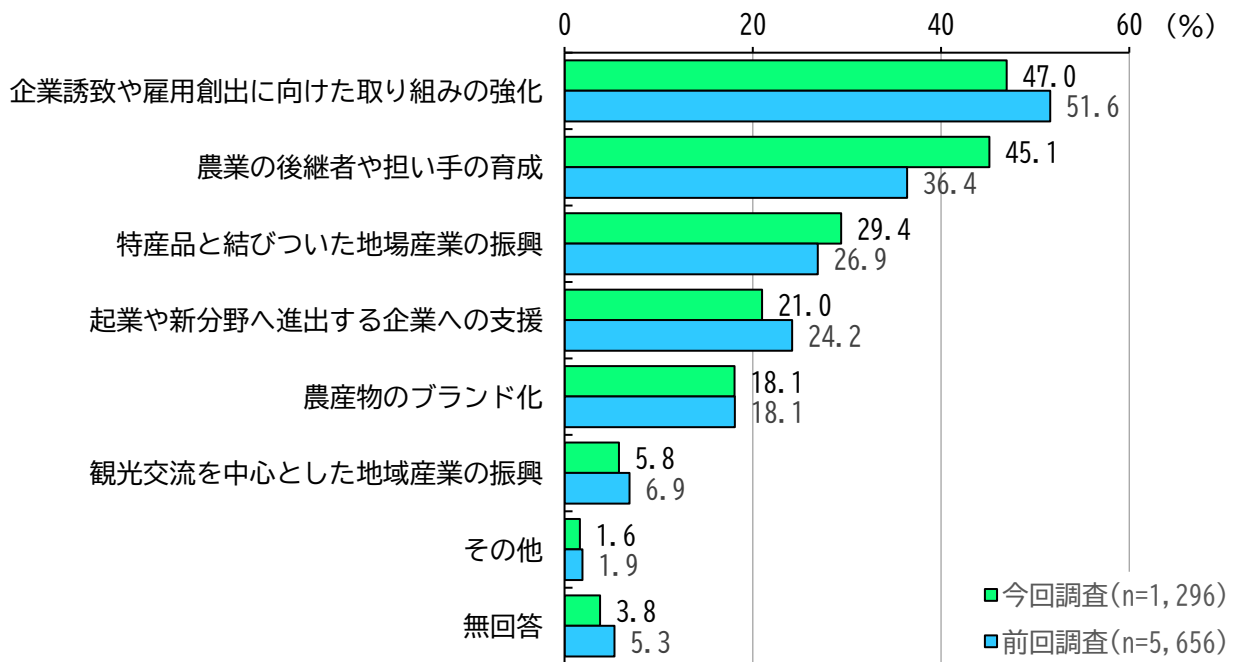
【クロス集計】住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策

・年齢別にみると、すべての年代で「公共交通機関の充実」の割合が高い。

		(n)	健康づくりの推進	地域医療・救急体制の確保	高齢者や障がい者への支援サービスの充実	公共交通機関の充実	快適で安全な道路環境の整備	無秩序な開発行為の抑制	豊かな自然環境の保全	魅力ある景観の形成	地域防災・防犯体制の強化	その他	無回答
全体		1296	10.7	26.9	23.8	52.5	19.4	12.9	15.9	3.9	11.7	2.2	1.5
年齢	10歳代	12	8.3	25.0	8.3	58.3	8.3	8.3	33.3	8.3	25.0	0.0	0.0
	20歳代	61	6.6	18.0	6.6	63.9	41.0	4.9	14.8	4.9	16.4	4.9	0.0
	30歳代	120	11.7	21.7	5.0	60.8	32.5	10.8	16.7	6.7	11.7	3.3	0.0
	40歳代	145	3.4	24.1	14.5	55.9	26.2	15.9	16.6	6.2	16.6	2.8	0.7
	50歳代	186	3.8	30.1	21.5	63.4	17.7	15.1	12.4	3.8	8.1	4.3	0.5
	60歳代	239	10.9	33.1	24.3	51.9	13.8	15.5	13.4	3.3	13.0	2.1	1.7
	70歳代	344	14.8	25.9	32.8	45.3	18.3	13.4	18.0	2.6	9.3	0.6	1.7
	80歳以上	178	16.3	27.0	34.8	42.7	11.2	8.4	16.3	2.8	12.4	1.1	3.9

(4) 産業を活性化させるために重点を置くべきこと

- ・産業を活性化させるために重点を置くべきことでは、「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」が47.0%と半数近くを占めて最も高く、次いで、「農業の後継者や担い手の育成」(45.1%)、「特産品と結びついた地場産業の振興」(29.4%)、「起業や新分野へ進出する企業への支援」(21.0%)の順となっており、雇用創出や担い手の育成などを望む人が多くなっている。
- ・前回調査と比較してみると、「農業の後継者や担い手の育成」の割合は今回調査の結果が8.7ポイント高くなっている。



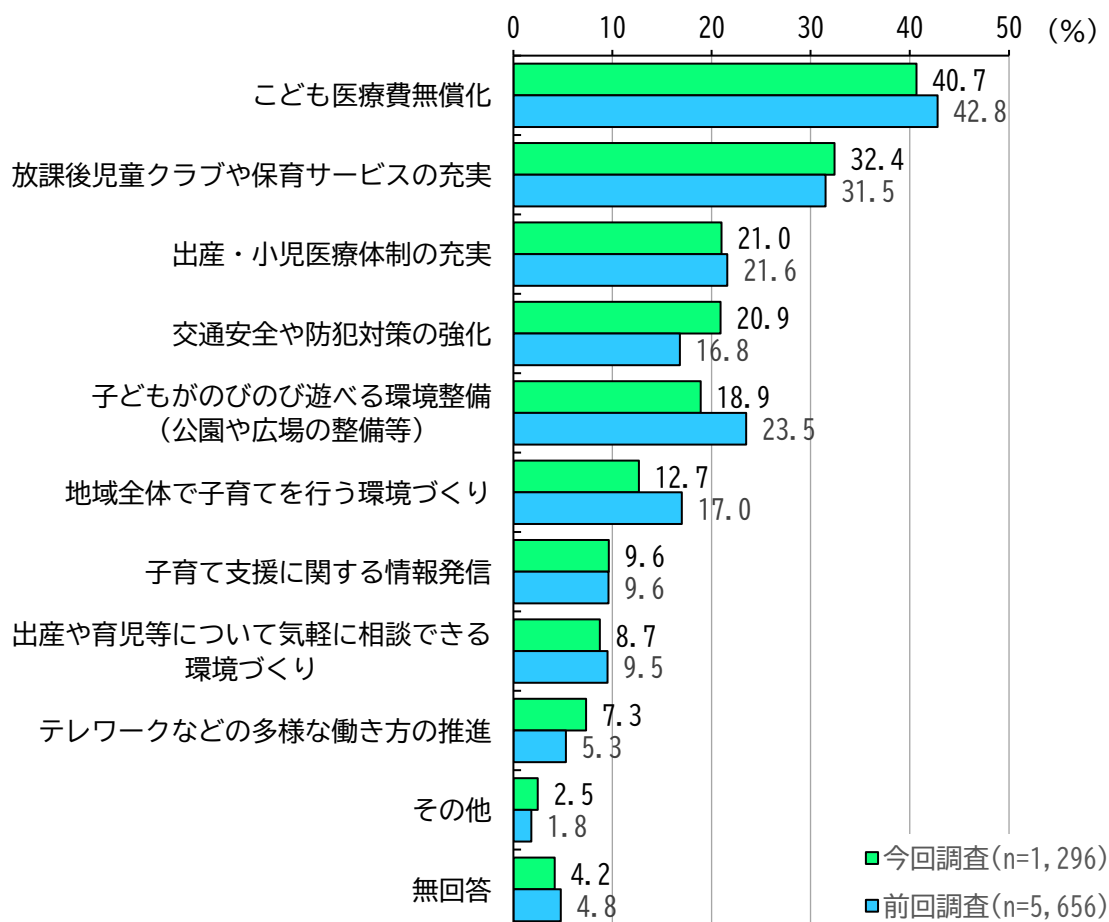
【クロス集計】産業を活性化させるために重点を置くべきこと

- ・年齢別にみると、40～60歳代で「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」の割合が半数を超えて高い。
- ・また、「農業の後継者や担い手の育成」については、30歳代と60歳以上で重点に置くべきと考えている割合が比較的高い。

		(n)	向企 業誘 致取 組 み の 強 化 に	進起 出業 する 新分 業野 への 支 援	地特 場産 品と 結 び つ い た	農 産 物 の ブ ラ ン ド 化	農 業 の 後 継 者 や 担 い 手 の 育 成	地観 域光 産交 業流 の振 興を 中心 とし た	そ の 他	無 回 答
全体		1296	47.0	21.0	29.4	18.1	45.1	5.8	1.6	3.8
年 齢	10歳代	12	41.7	33.3	33.3	8.3	41.7	8.3	0.0	0.0
	20歳代	61	41.0	27.9	29.5	18.0	31.1	11.5	1.6	0.0
	30歳代	120	41.7	15.0	32.5	30.8	45.8	9.2	0.8	1.7
	40歳代	145	54.5	22.1	26.9	26.2	38.6	4.1	2.8	0.0
	50歳代	186	51.6	20.4	25.8	22.6	42.5	4.3	2.2	4.3
	60歳代	239	51.9	23.8	27.6	15.9	48.5	5.9	1.3	1.3
	70歳代	344	43.6	20.3	33.1	11.9	48.0	4.7	1.7	4.7
	80歳以上	178	42.7	19.7	28.1	12.4	48.9	6.7	0.6	10.7

(5) 子育て支援のために重要だと思う施策

- ・子育て支援のために重要だと思う施策では、「こども医療費無償化」が40.7%で最も多く、次いで、「放課後児童クラブや保育サービスの充実」(32.4%)、「出産・小児医療体制の充実」(21.0%)、「交通安全や防犯対策の強化」(20.9%)の順となっており、医療費補助の充実や子育て支援サービスと環境整備を望む人が多くなっている。
- ・前回調査と比較してみると、「交通安全や防犯対策の強化」が4.1ポイント高くなっている。



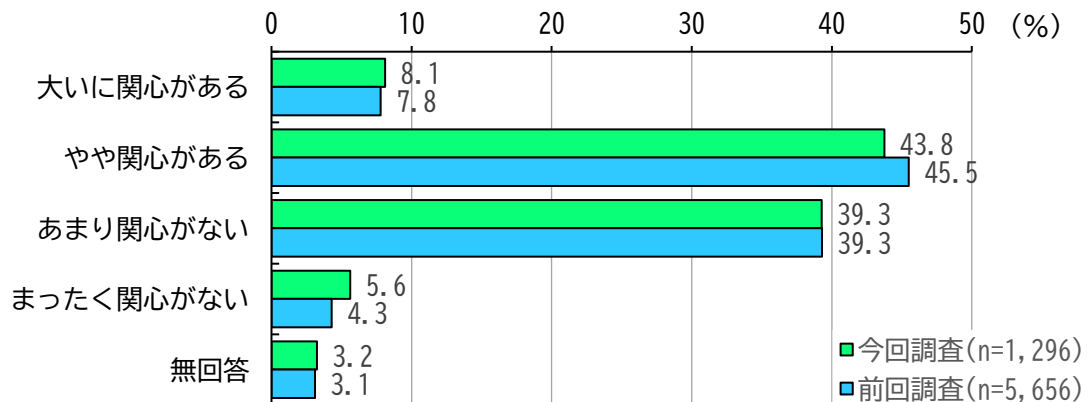
【クロス集計】子育て支援のために重要だと思う施策

・年齢別にみると、すべての年代で「こども医療費無償化」が最も高く、特に10歳代で6割を超えている。

	(n)	こども医療費無償化	放課後児童クラブや保育サービス	子育て支援に関する情報発信	地域全体で子育てを行う環境づくり	テレワークなどの多様な働き方の推進	交通安全や防犯対策の強化	出産・小児医療体制の充実	出産や育児等について気軽に相談できる環境づくり	子どもがのびのび遊べる環境整備（公園や広場の整備等）	その他	無回答	
全体	1296	40.7	32.4	9.6	12.7	7.3	20.9	21.0	8.7	18.9	2.5	4.2	
年齢	10歳代	12	66.7	8.3	8.3	16.7	8.3	33.3	41.7	0.0	8.3	0.0	0.0
	20歳代	61	45.9	32.8	8.2	4.9	11.5	14.8	37.7	6.6	14.8	1.6	1.6
	30歳代	120	44.2	41.7	6.7	8.3	15.0	18.3	21.7	5.0	25.0	5.8	0.0
	40歳代	145	44.1	29.7	8.3	12.4	9.7	26.2	19.3	5.5	20.7	6.9	1.4
	50歳代	186	41.4	36.6	7.5	12.9	10.8	20.4	24.2	4.8	15.1	3.2	2.2
	60歳代	239	41.8	38.5	10.9	11.7	6.7	17.2	20.9	9.2	18.8	1.7	2.1
	70歳代	344	36.0	31.4	11.9	14.8	4.1	23.0	18.3	9.6	19.5	0.9	6.1
	80歳以上	178	37.6	21.3	10.1	15.2	2.8	20.8	16.3	16.3	18.5	0.6	11.2

(6) 住民参加のまちづくり活動に対する関心度

- ・住民参加のまちづくり活動に対する関心度については、「やや関心がある」が43.8%で最も多く、「大いに関心がある」(8.1%)と合わせると、半数以上の人々が住民参加のまちづくり活動に関心を持っていることがわかる。
- ・一方で、「あまり関心がない」(39.3%)と「まったく関心がない」(5.6%)を合わせると、住民参加のまちづくり活動に関心を持っていない人が4割強となっている。
- ・前回調査と比較してみると、大きな傾向の違いはみられない。



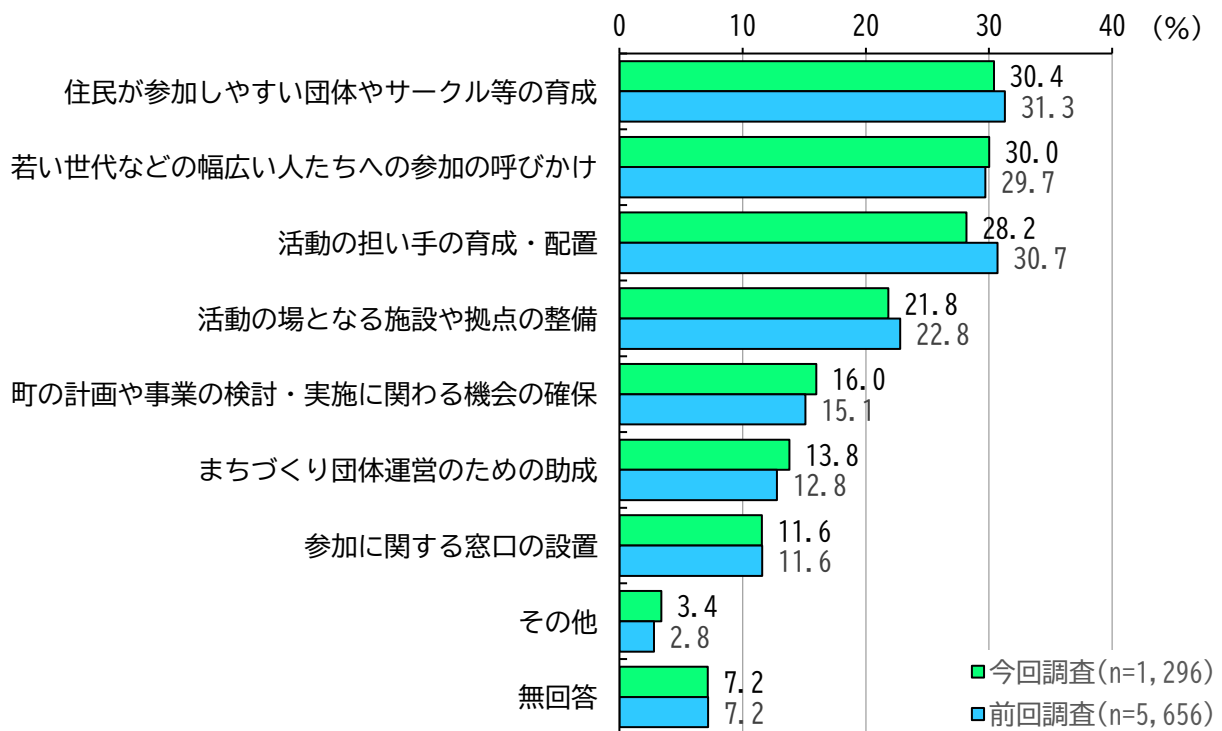
【クロス集計】住民参加のまちづくり活動に対する関心度

- ・年齢別にみると、40～50歳代を除くすべての年代で「大いに関心がある」と「やや関心がある」が合わせて半数を超えている。
- ・「大いに関心がある」と「やや関心がある」の合計が高いのは、80歳以上(61.8%)、10歳代(58.3%)、30歳代(56.6%)の順となっている。

		(n)	大いに 関心 が	やや 関心 が	あまり 関心 が	まったく 関心 が	無 回 答
全体		1296	8.1	43.8	39.3	5.6	3.2
年 齢	10歳代	12	0.0	58.3	33.3	0.0	8.3
	20歳代	61	11.5	39.3	42.6	6.6	0.0
	30歳代	120	10.8	45.8	34.2	9.2	0.0
	40歳代	145	8.3	34.5	47.6	8.3	1.4
	50歳代	186	7.5	40.3	39.8	8.1	4.3
	60歳代	239	5.9	46.4	41.8	3.3	2.5
	70歳代	344	7.0	43.3	42.4	4.9	2.3
	80歳以上	178	11.8	50.0	25.8	3.4	9.0

(7) 町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策

- ・町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策では、「住民が参加しやすい団体やサークル等の育成」が30.4%、「若い世代などの幅広い人たちへの参加の呼びかけ」が30.0%で3割以上となっている。
- ・次いで、「活動の担い手の育成・配置」(28.2%)、「活動の場となる施設や拠点の整備」(21.8%)の順となっており、団体や担い手の育成とともに、活動しやすい環境の整備や参加の呼びかけを望む声が多くなっている。
- ・前回調査と比較してみると、大きな傾向の違いはみられない。



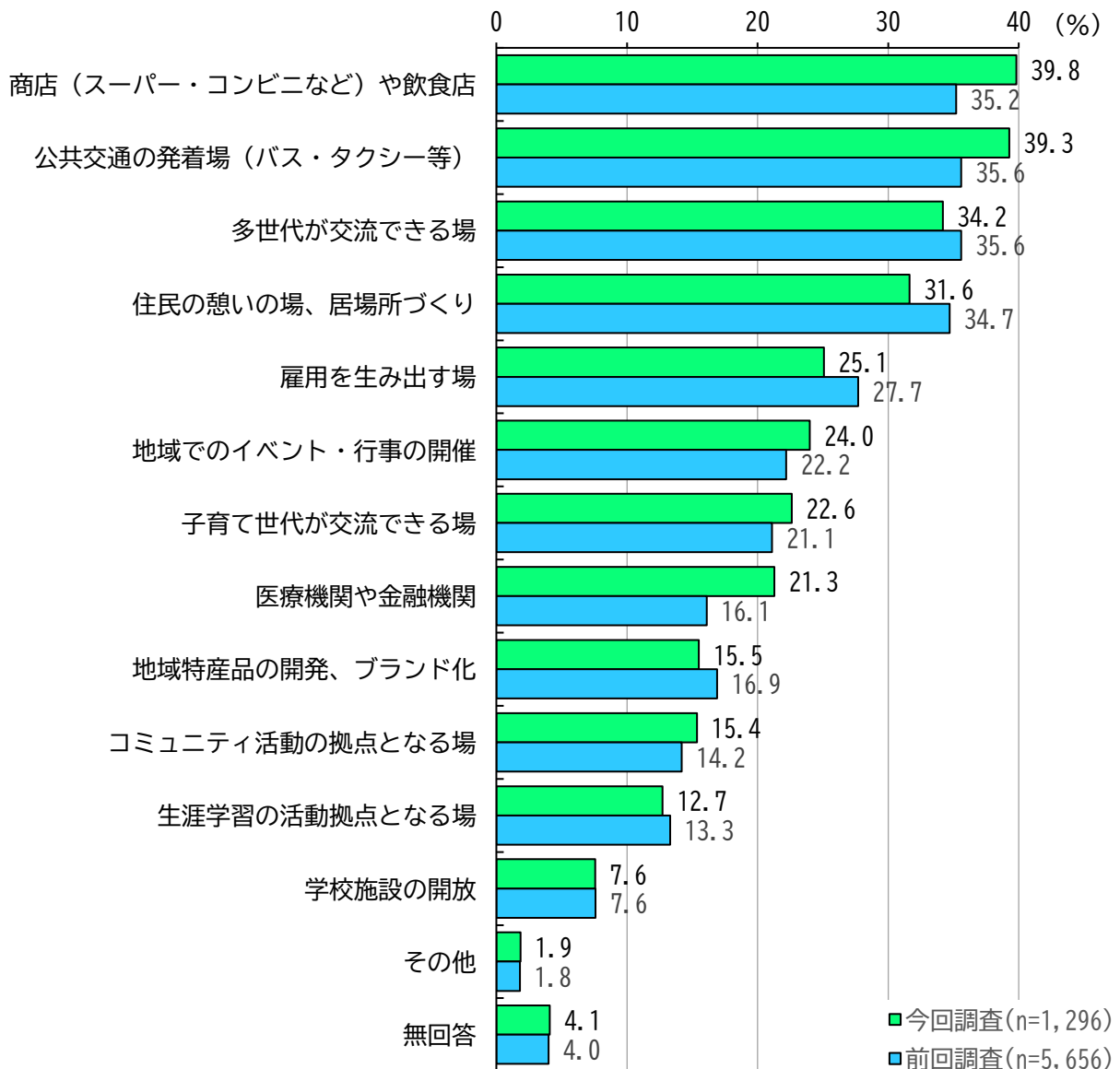
【クロス集計】町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策

・年齢別にみると、10～30歳代と80歳以上で「若い世代などの幅広い人たちへの参加の呼びかけ」の割合が高い。

	(n)	育成活動の担い手の配置	施設活動の拠点となる整備	のまちづくりの団体運営	設置参加に関する窓口の	呼びかけ世代への参加の幅	若い世代への参加の幅	育成団体や参加しやすい等の	住民が参加しやすい等の	機会の確保に事業の	検討・実施に事業の	町の計画や事業の	その他	無回答
全体	1296	28.2	21.8	13.8	11.6	30.0	30.4	16.0	3.4	7.2				
年齢	10歳代	12	33.3	33.3	8.3	8.3	41.7	41.7	8.3	0.0	0.0			
	20歳代	61	23.0	26.2	14.8	6.6	41.0	29.5	24.6	0.0	3.3			
	30歳代	120	29.2	25.8	11.7	10.0	35.8	22.5	15.8	6.7	3.3			
	40歳代	145	22.8	20.0	17.9	8.3	27.6	30.3	20.7	8.3	4.1			
	50歳代	186	27.4	17.2	12.9	13.4	23.7	32.8	20.4	3.8	8.1			
	60歳代	239	32.6	25.1	13.8	16.3	31.0	30.5	14.6	1.7	3.8			
	70歳代	344	27.6	22.1	13.7	10.2	29.1	32.0	11.9	2.9	9.6			
	80歳以上	178	29.2	18.5	13.5	11.8	30.9	30.3	15.2	1.1	12.9			

(8) 地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能

- ・地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能では、「商店（スーパー・コンビニなど）や飲食店」が 39.8%と最も多く、次いで、「公共交通の発着場（バス・タクシー等）」（39.3%）、「多世代が交流できる場」（34.2%）、「住民の憩いの場、居場所づくり」（31.6%）の順となっている。
- ・前回調査と比較してみると、「商店（スーパー・コンビニなど）や飲食店」、「公共交通の発着場（バス・タクシー等）」、「医療機関や金融機関」など項目の割合が高くなっている一方、「住民の憩いの場、居場所づくり」などの項目で割合が低くなっている。



【クロス集計】地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能

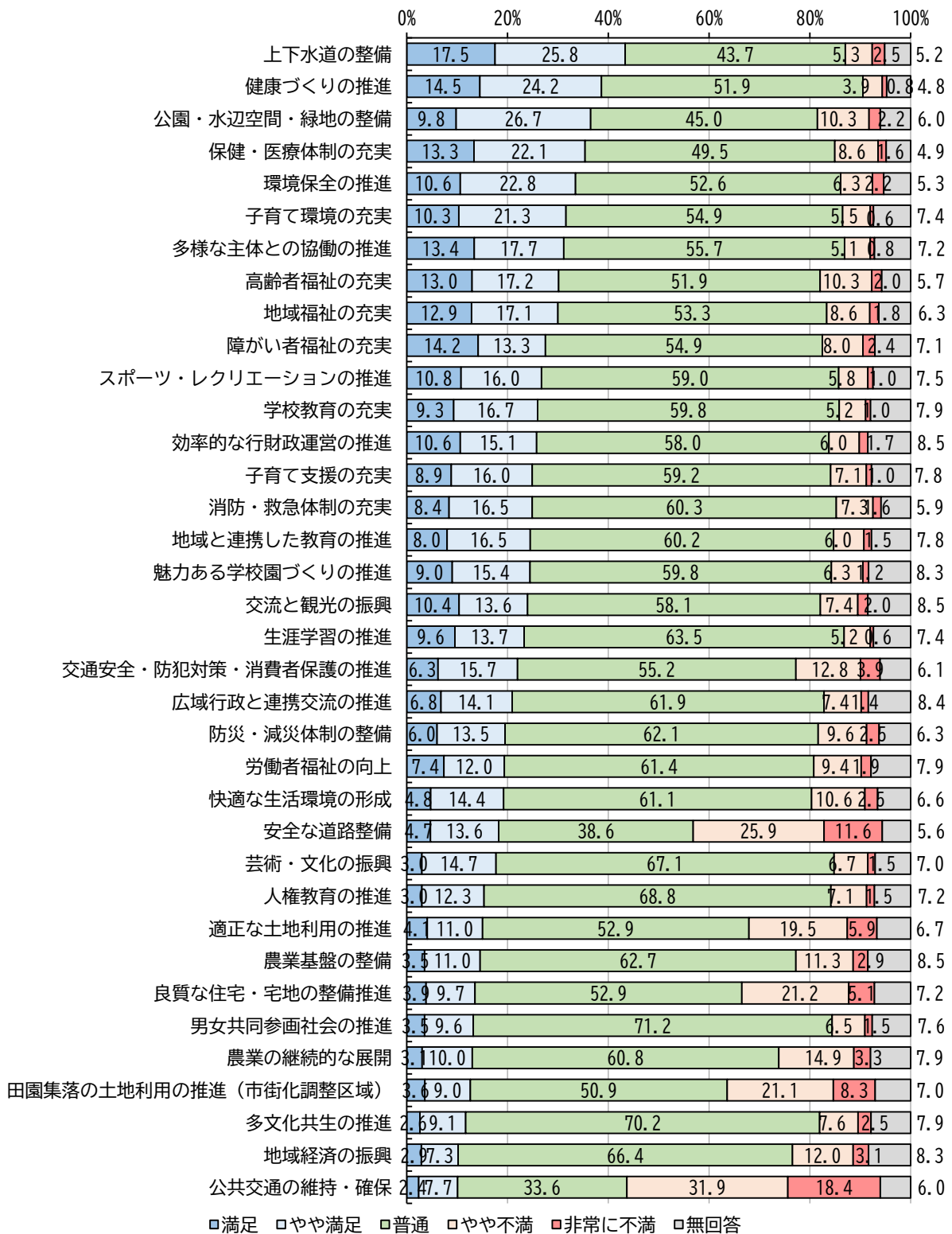
- ・年齢別にみると、10～30歳代で「子育て世代が交流できる場」が4～5割と比較的高い。
- ・「商店（スーパー・コンビニなど）や飲食店」については、50歳代以下で4～6割と比較的高い。
- ・「公共交通の発着場（バス・タクシー等）」については、すべての年代で4割前後とおしなべて高い。

		(n)	多世代が交流できる場	子育て世代が交流できる場	住民の憩いの場、居場所づくりの場	生涯学習の活動拠点となる場	コミュニティ活動の拠点となる場	地域でのイベント・行事の開催	地域特産品の開発、ブランド化
全体		1296	34.2	22.6	31.6	12.7	15.4	24.0	15.5
年齢	10歳代	12	50.0	41.7	16.7	16.7	33.3	50.0	16.7
	20歳代	61	24.6	49.2	32.8	23.0	19.7	31.1	9.8
	30歳代	120	29.2	50.8	25.8	9.2	15.8	30.8	20.8
	40歳代	145	28.3	21.4	24.8	8.3	17.9	27.6	26.2
	50歳代	186	34.4	18.3	19.9	11.3	17.2	24.7	19.9
	60歳代	239	37.2	21.3	33.9	13.4	15.9	24.7	14.2
	70歳代	344	33.1	16.0	41.3	14.2	14.0	20.9	10.2
	80歳以上	178	41.0	14.0	34.3	12.9	10.7	16.9	12.4
		(n)	（公共交通の発着場等）	（商店・スーパー・飲食店・コンビニなど）	医療機関や金融機関	雇用を生み出す場	学校施設の開放	その他	無回答
全体		1296	39.3	39.8	21.3	25.1	7.6	1.9	4.1
年齢	10歳代	12	41.7	41.7	41.7	25.0	33.3	8.3	0.0
	20歳代	61	45.9	45.9	21.3	16.4	9.8	0.0	3.3
	30歳代	120	40.0	60.8	26.7	25.8	15.0	2.5	0.0
	40歳代	145	40.0	45.5	19.3	35.2	9.0	2.8	0.7
	50歳代	186	44.6	50.0	25.8	29.6	5.4	2.7	3.2
	60歳代	239	36.4	36.0	17.6	25.9	6.3	1.7	3.3
	70歳代	344	35.2	32.3	20.3	23.8	5.8	1.5	4.7
	80歳以上	178	41.6	28.1	20.2	16.9	6.7	1.1	10.7

5. 稲美町の施策について

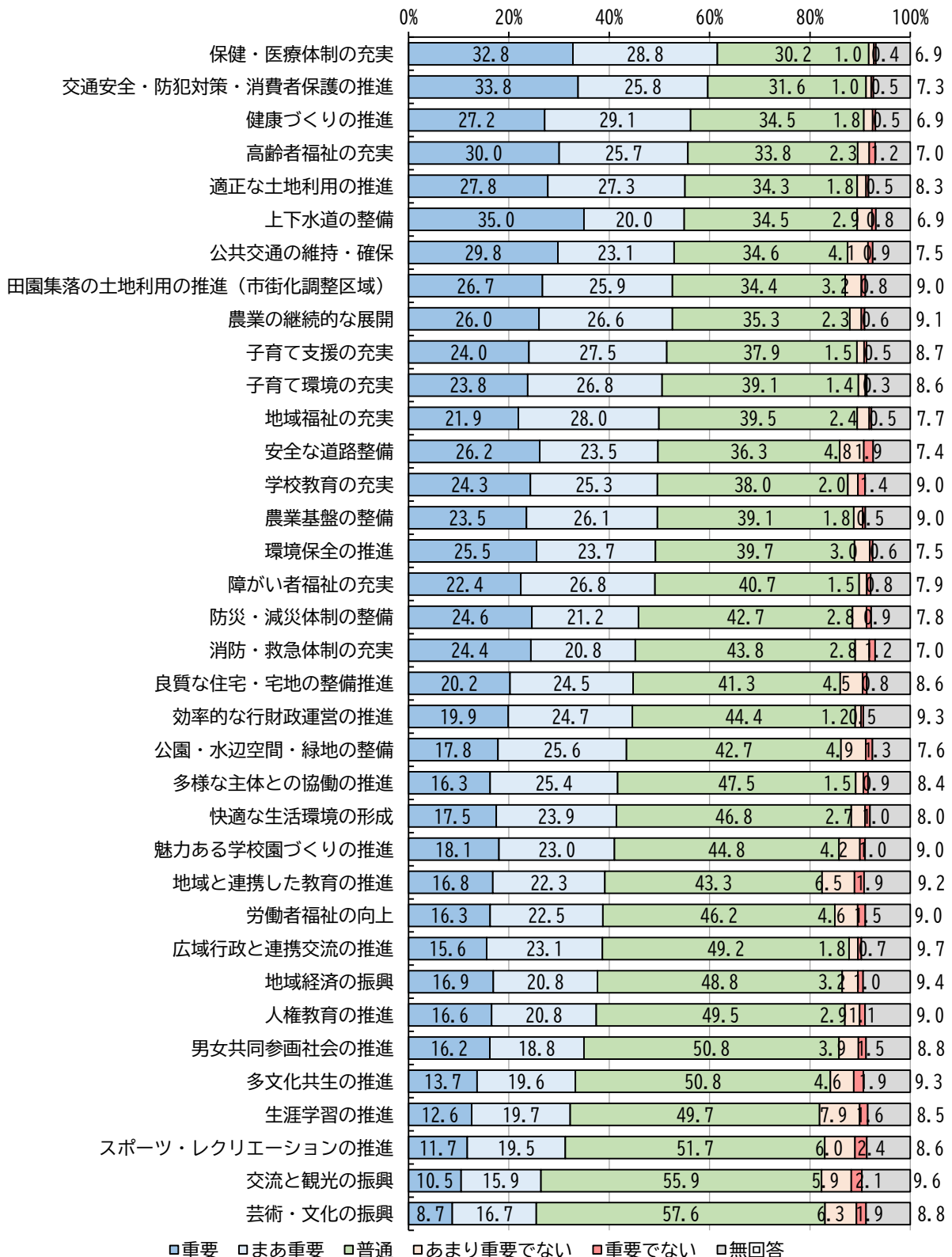
(1) 町の施策の満足度

- ・町の施策の満足度では、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“上水道事業の適切な運営”で43.4%と4割以上を占めて最も高く、次いで、“健康づくりの推進”(38.7%)、“公園・水辺空間・緑地の整備”(36.5%)、“保健・医療体制の充実”(35.4%)、“環境保全の推進”(33.4%)の順となっている。
- ・一方で、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた『不満』の割合をみると、“公共交通の維持・確保”で50.3%と約5割を占めて最も高く、次いで、“安全な道路整備”(37.5%)、“田園集落の土地利用の推進(市街化調整区域)”(29.4%)、“良質な住宅・宅地の整備推進”(26.3%)の順となっており、交通面での不満が高い傾向となっている。



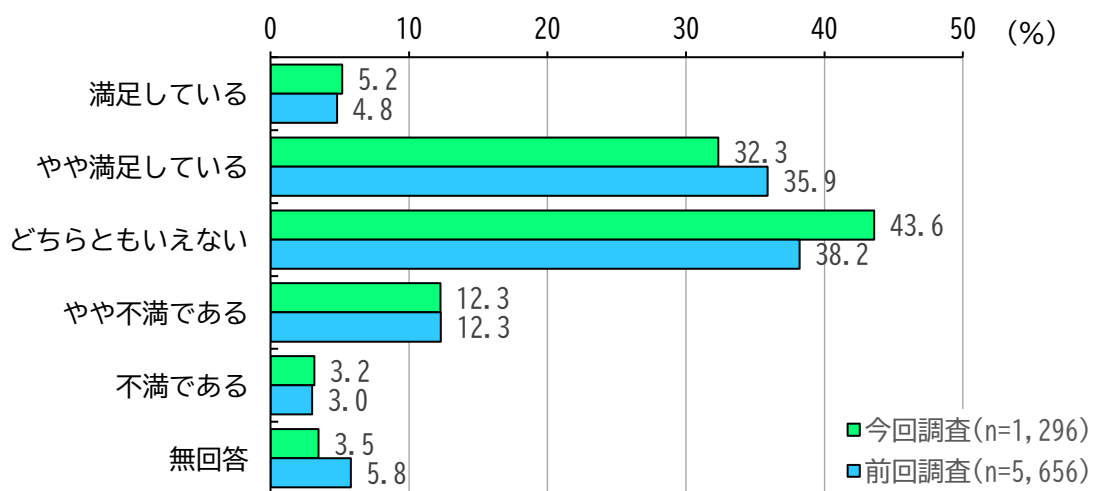
(2) 町の施策の重要度

- ・町の施策の重要度では、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“保健・医療体制の充実”で61.6%と6割を超えて最も高く、次いで、“交通安全・防犯対策・消費者保護の推進”(59.6%)、“健康づくりの推進”(56.3%)の順となっている。
- ・(1)と比較すると、不満の高い交通面の施策について重要性が高いと感じている人も多い一方で、暮らしの安心・安全に関わる項目が上位2項目を占める結果となっている。



(3) 稲美町の行政施策全般の満足度

- ・稲美町の行政施策全般の満足度については、「どちらともいえない」が 43.6%と4割以上を占めて最も高くなっているものの、次いで「やや満足している」が 32.3%となっており、「満足している」(5.2%) と合わせると、4割近くの人が稲美町の行政施策全般に満足していることがわかる。
- ・一方で、「やや不満である」(12.3%) と「不満である」(3.2%) を合わせると、行政施策全般不満を感じている人が 15.5%となっている。
- ・前回調査と比較してみると、「やや満足している」の割合は今回調査の結果が 3.6 ポイント低く、一方「どちらともいえない」が 5.4 ポイント高くなっている。



Ⅲ 調査結果からみる課題のまとめ

1. 地域の魅力と生活環境に関する課題

- ・住みやすさの評価（「住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）については高水準（7割超）を維持しているが、「どちらかといえば住みにくい」が前回よりわずかに増加し、若年層を含む世代で1割を超えている。
- ・愛着度の低下傾向が確認され、町全体・居住地区ともに「愛着を感じる」が前回調査より4～5ポイント減少。特に30～50歳代で「どちらともいえない」が増加する傾向がみられ、地域活動への希薄化が懸念される。
- ・町の「強み」として自然の豊かさ・災害の少なさ・農産物の魅力が依然上位だが、上位項目で5ポイント前後の低下がみられ、魅力発信力の弱まりが示唆される。
- ・「ずっと住み続けたい」割合が7.5ポイント減少しており、特に20歳代・50歳代では転出意向が1割を超える。後続設問の結果から、公共交通や利便性の不足が主因と考えられる。

→ 生活利便性・交通環境の改善と、愛着醸成のための地域ブランド発信が重要。

2. 公共交通・移動手段の課題

- ・「今後も住み続けたいと思わない理由」では「公共交通の便が悪い」（82.4%）が突出して高い。
- ・町の施策への不満点でも「公共交通の維持・確保」が50.3%で最上位を占める。
- ・「住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策」でも「公共交通機関の充実」が52.5%と最多である。
- ・各年代で通勤・通学・買い物の不便さが共通課題として散見され、高齢化の進行と免許返納も見据えると生活交通体系の再構築が優先課題として浮かび上がる。

→ 稲美町地域公共交通計画に基づき、「生活バス路線」「駅へのアクセス」「高齢者移動支援」などの課題に対応する、多層的な交通施策の展開が必要。

3. 人口減少と若年層定住に関する課題

- ・人口減少への不安（「不安を感じる」＋「どちらかといえば不安を感じる」）は7割を超え、日常生活で「人口減少を実感する」人が約6割。
 - ・人口減少に伴い、「自治会や祭りの担い手不足」「近所で子どもを見かけなくなった」などの回答が増加しており、地域活動の担い手減少が懸念される。
 - ・抑制策として「妊娠・出産、子育てへの支援」（34.9%）、「産業の振興、雇用創出」（29.6%）が上位。
 - ・若い世代の定住策では「公共交通機関の充実」（55.2%）と「子育てに対する支援」（49.3%）が双璧をなして高い。
 - ・自治会負担や市街化調整区域の制約など、居住・生活基盤に関する構造的課題がその他自由記述で多く挙がる。
- 出産・子育て・雇用・交通を一体で捉えた「若年層定住に向けた戦略」が必要。

4. 地域コミュニティ・住民参加の課題

- ・まちづくりへの関心がある（「大いに関心がある」＋「やや関心がある」）人は5割を超えるが、関心がない（「あまり関心がない」＋「まったく関心がない」）人も4割強を占め二分している。
 - ・町政に関する情報が伝わっている（「十分に伝わっている」＋「ある程度伝わっている」）と感じる人は5割強にとどまり、伝わっていない（「あまり伝わっていない」＋「ほとんど伝わっていない」）と感じる人が4割強いる。
 - ・情報入手手段は「広報いなみ」に大きく依存（87.5%）しており、若い世代（10～30歳代）でもWeb・SNS利用が低調。
 - ・住民参加促進のためには「住民が参加しやすい団体やサークル等の育成」（30.4%）、「若い世代などの幅広い人たちへの参加の呼びかけ」（30.0%）、「活動の担い手の育成・配置」（28.2%）が上位。
 - ・その他自由記述では「仕事や子育てで時間が取れない」「ネットやアンケートを活用した参加の仕組み」など、柔軟な参加形態の整備を求める声が多い。
- 情報発信・参加方法のデジタル化（オンライン対話、スマホ参加、SNS広報）を進め、世代間での参加格差を縮小することが課題。

5. 産業・雇用・地域活性化に関する課題

- ・「産業を活性化させるために重点を置くべきこと」は「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」(47.0%)と「農業の後継者や担い手の育成」(45.1%)が高い。
- ・前回と比較すると農業分野の比重に上昇傾向がみられる。
- ・にぎわい創出に必要な機能として「商店や飲食店」(39.8%)、「公共交通の発着場」(39.3%)、「多世代が交流できる場」(34.2%)が上位。
- ・若い世代(10~30歳代)では「子育て世代が交流できる場」へのニーズが顕著。

→ 農業など地域の強みを生かしつつ、雇用や商業、交通を連携するにぎわい(交流)と働く場の形成を図ることが重要。

6. 子育て・教育支援に関する課題

- ・「子育て支援のために重要だと思う施策」では、「こども医療費無償化」(40.7%)が最も多く、引き続き医療費負担の軽減に対するニーズが高い。次いで「放課後児童クラブや保育サービスの充実」(32.4%)、「出産・小児医療体制の充実」(21.0%)が続き、安心して子どもを預け、育てられる環境の整備が求められている。
- ・その他自由記述では「給食費や保育料の無償化」「病児保育」「通学路整備」「送迎付き習い事の支援」など、生活に密着した具体的な意見が多くみられる。また「子どもが安全に遊べる場所」「身近に利用できる子ども食堂」「母親の孤立防止」といった居場所づくりや地域の支え合いに関する意見も多い。
- ・一方、「交通安全や防犯対策の強化」(20.9%)も上位に挙がり、通学時の安全確保など、子どもも安心して地域生活を送ることができるまちづくりが課題となっている。

→ 結婚・出産・育児を切れ目なく支援する体制構築と、地域ぐるみの子育て環境づくりが求められる。